

『東京の子供と家庭』の結果（速報）

令和4年度東京都福祉保健基礎調査

令和5年4月27日
福祉保健局

令和4年度東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」における主な調査結果について、このたび速報としてまとめました。今回は、子供本人（小学校4年生～中学校3年生）に対する調査を初めて行いましたので、あわせてお知らせします。

養育者の従業上の地位は、父母ともに「正規の職員・従業員」が最も高く、母は「正規の職員・従業員」が4割超。また、両親世帯のうち、共働き世帯の割合は6割超。

母の従業上の地位は、「正規の職員・従業員」の割合（47.8%）が最も多く、前回調査（29年度）と比べて5.7ポイント高い。一方、「パート・アルバイト」は前回調査よりも5.4ポイント低く、29.9%となっている。また、両親世帯における共働き世帯の割合は66.7%で、前回調査より5.2ポイント高い。

【調査結果の概要P5～6】

家事・育児を「もっとやりたい」と思っている父は、6割強

夫婦の家事・育児分担について、父の63.2%が「（自分が）もっとやりたい」、母の71.5%が「（配偶者に）もっとやってほしい」と思っている。どうすればもっと家事・育児ができるか聞いたところ、父は「勤務時間が短縮できれば」が61.4%で最も高い。一方、母は「配偶者自身の意識が変われば」が最も高く、52.0%となっている。

【調査結果の概要P31】

ひとり親になって今まで困ったことが「あった」と答えたひとり親世帯は、約8割

暮らし向きのことや子育てに関して今まで困ったことが「あった」と答えたひとり親世帯は79.7%で、そのうちひとり親になった当時困ったことは、「家計について」と答えた世帯が70.0%で最も高い。また、現在働いているひとり親で転職する希望が「ある」と答えた割合は35.9%で、その理由は「収入が良くない」が67.3%で最も高く、次いで「将来が不安」が49.7%、「もっと子供と関わる時間がほしい」が26.5%となっている。

【調査結果の概要P19～20】

【子供本人に対する調査（新規）】

「勉強のこと」で不安や悩みを感じるものが「よくある」「ときどきある」と答えた子供は5割強。また、不安や悩みごとの相談相手で最も多いのは「母親」で7割強。

小学校4年生から中学校3年生の子供について、悩みや不安を感じるものが「よくある」「ときどきある」を合わせた割合が最も多いのは「勉強のこと」で52.8%、次いで「将来や進路のこと」が44.9%である。また、不安や悩みごとがある場合、これまでに話を聞いてもらったり、相談した人については、「母親」と回答した割合が73.6%で最も高く、次いで「友達」が57.5%、「父親」が39.9%となっている。

【調査結果の概要P34～35】

※調査の概要は次ページ

※調査結果の概要 別紙のとおり

問合せ先

福祉保健局総務部総務課 担当 西川、永田
(内線) 32-120、32-017 (直通) 03-5320-4015
(FAX) 03-5388-1400

【調査の概要】

1 調査の目的

東京都内に居住する子供を養育する世帯の生活実態及び子育ての状況などを明らかにし、東京都における子供家庭福祉施策充実のための基礎資料を得ることを目的とする。（昭和 59 年度から 5 年毎に行っており、今回で 9 回目）

2 調査の根拠

東京都統計調査条例（昭和 32 年東京都条例第 15 号）第 2 条第 3 項に基づく都指定統計調査

3 実施の概要

(1) 調査基準日

令和 4 年 10 月 12 日（調査期間 令和 4 年 10 月 12 日から同年 11 月 11 日まで）

(2) 調査対象者

- ① 東京都内に居住する小学生までの子供を養育する世帯 4,800 世帯
- ② 東京都内に居住する 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯
- ③ 上記①及び②の世帯の子供の養育者 10,800 人
- ④ 上記①及び②の世帯の子供（うち、小学校 4 年生～中学校 3 年生）※今回新規

(3) 調査方法

調査員による訪問調査と郵送・インターネット調査を併用し、各方法について調査対象地区を分けて実施した。

- ① 調査員が調査対象世帯を訪問の上調査票を配布し、対象者である養育者（父母）又は子供が該当の調査票に回答を記入後、郵送で提出する。
- ② 郵送により調査対象世帯に調査票を配布し、対象者である養育者（父母）又は子供が該当の調査票に回答を記入後に郵送で提出するか、インターネット上の回答フォームに回答する。

(4) 集計の対象

- ① 子育て世帯の状況（調査票①）
調査の客体 6,000 世帯のうち、回答を得られた 3,013 世帯（回収率 50.2%）
- ② 子育てに関する意識（調査票②）
調査の客体 6,000 世帯の子供の養育者 10,800 人のうち、回答を得られた 5,202 人（回収率 48.2%）
- ③ 子供の意識調査（調査票③）
調査票①の回答があった 3,013 世帯の小学校 4 年生から中学校 3 年生までの子供 1,618 人のうち、回答を得られた 1,440 人（回収率 89.0%）

4 調査結果の概要と公表

福祉保健局ホームページにも単純集計結果とあわせて掲載している。

なお、結果は速報値のため、本年 11 月発表予定の確定報告では、一部修正の可能性はある。

福祉保健局トップページ>調査・統計>東京都福祉保健基礎調査>令和 4 年度東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/chosa_tokei/zenbun/reiwa4/index.html



調査結果の概要

(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

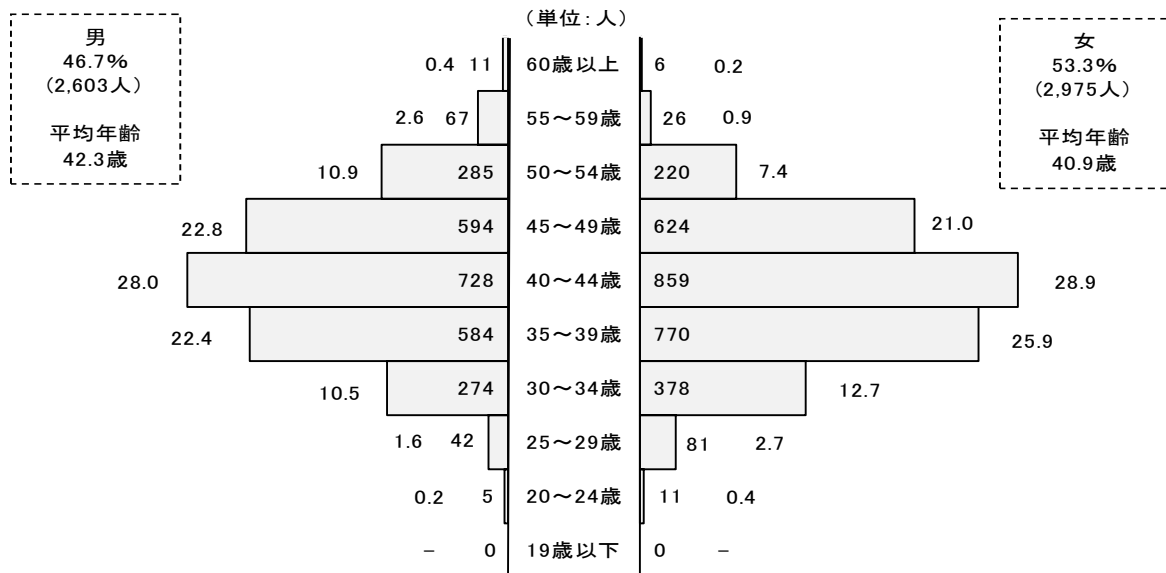
○ 調査票①（世帯票）の結果

3,013世帯(集計対象世帯)の父母(父母の代わりに子供を養育している人も含む)5,578人と子供5,360人の状況

1 子育て世帯の状況

(1) 父母の性・年齢階級

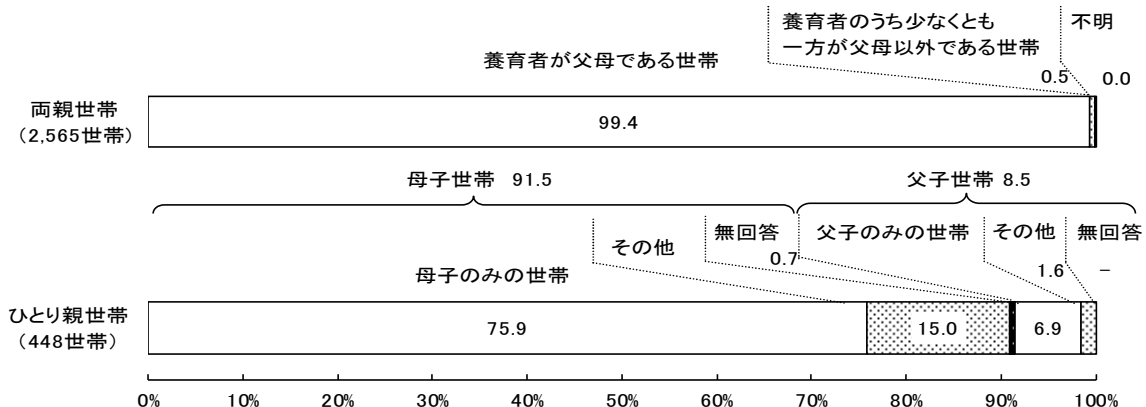
父母の人数を年齢階級別にみると、男女ともに「40～44歳」が最も多く、男性は728人、女性は859人となっている。父母の平均年齢は男性42.3歳、女性40.9歳である。



(注) 男性の合計が100%にならないのは、父親の年齢無回答の人がいるためである。
 また、男性 2,603人には、年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

(2) 世帯類型（母子・父子世帯別）

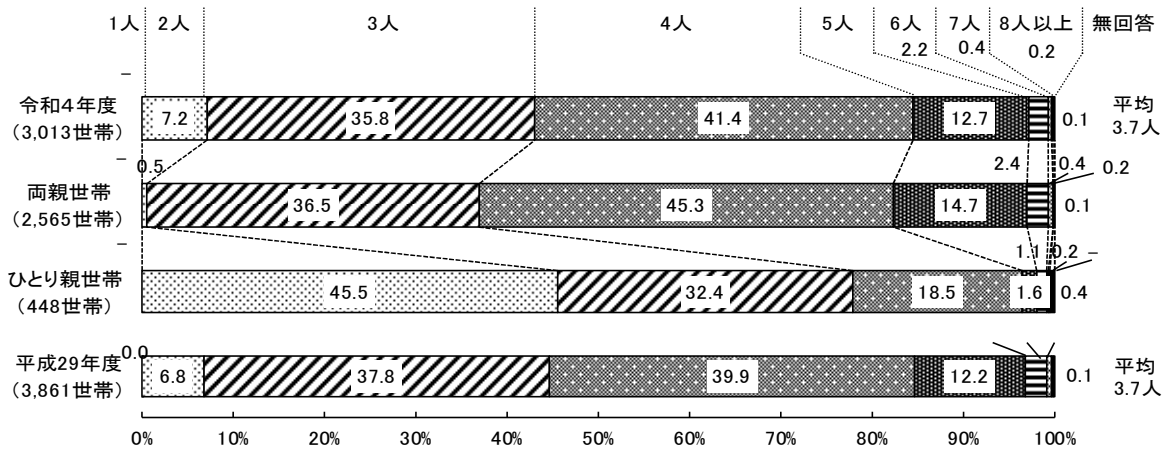
集計対象世帯を両親・ひとり親世帯別にみると、両親世帯が2,565世帯、ひとり親世帯が448世帯となっている。



(3) 世帯人員

世帯人員は、「4人」の割合が41.4%で最も高く、次いで「3人」の割合が35.8%となっている。

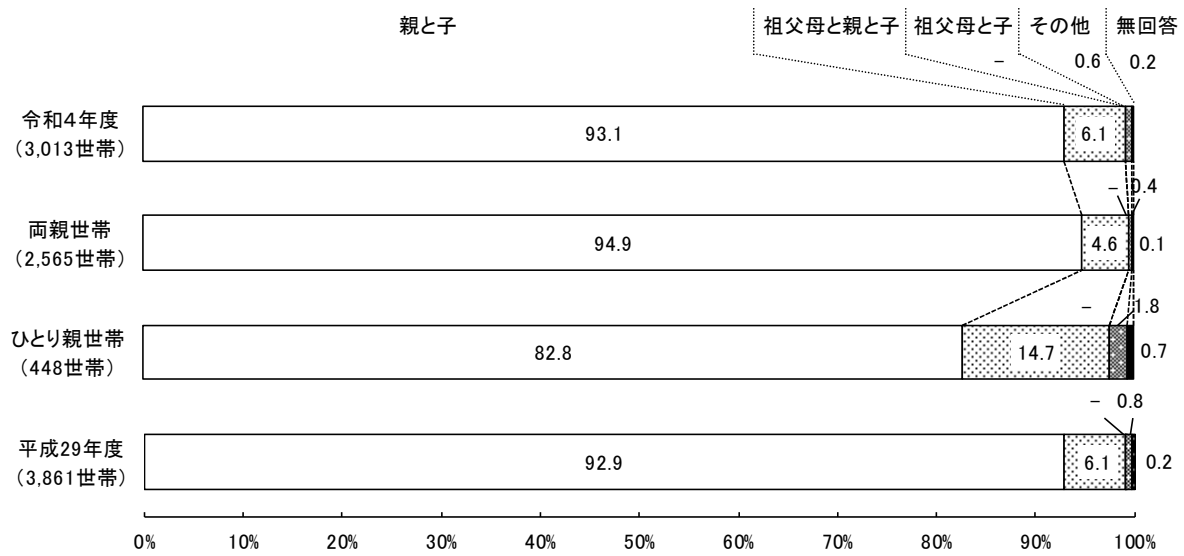
両親・ひとり親世帯別にみると、両親世帯では「4人」の割合が45.3%で最も高く、次いで「3人」の割合が36.5%となっている。ひとり親世帯では「2人」の割合が45.5%で最も高く、次いで「3人」の割合が32.4%となっている。



(4) 家族類型

家族類型は、「親と子」の割合が93.1%、「祖父母と親と子」が6.1%となっている。

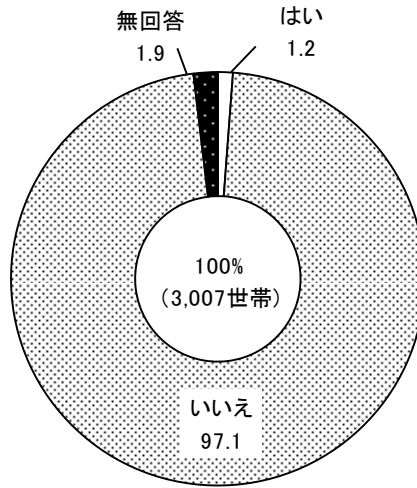
両親・ひとり親世帯別にみると、両親世帯、ひとり親世帯ともに「親と子」の割合が最も高く、両親世帯は94.9%、ひとり親世帯は82.8%となっている。また、「祖父母と親と子」の割合は、両親世帯は4.6%、ひとり親世帯は14.7%となっている。



(5) ステップファミリー

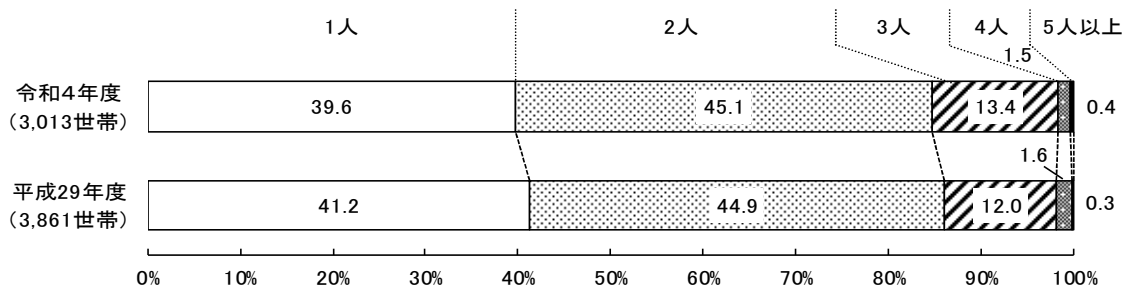
家族類型が「祖父母と子」又は「無回答」だった世帯を除く 3,007 世帯について、ステップファミリー（※）の状況を見ると、「はい」と回答した世帯の割合は 1.2%となっている。

※ 再婚等により血縁のない親子・兄弟などのいる家庭をいう。



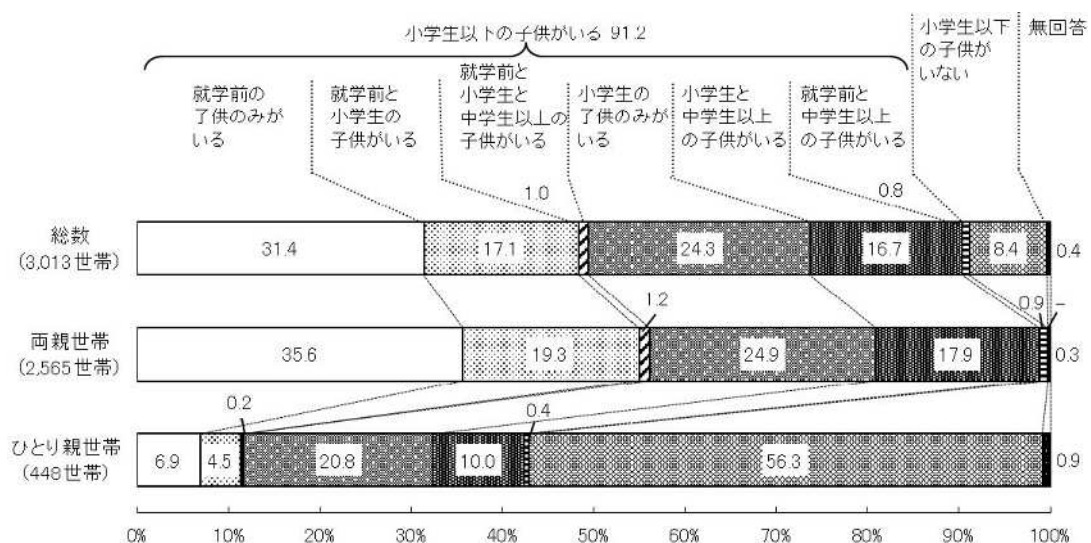
(6) 子供の人数

世帯の子供の人数は、「2人」の割合が 45.1%で最も高く、次いで「1人」の割合が 39.6%となっている。



(7) 世帯類型（子供の就学状況別）

世帯の子供の就学状況を見ると、小学生以下の子供がいる世帯は 91.2%となっている。

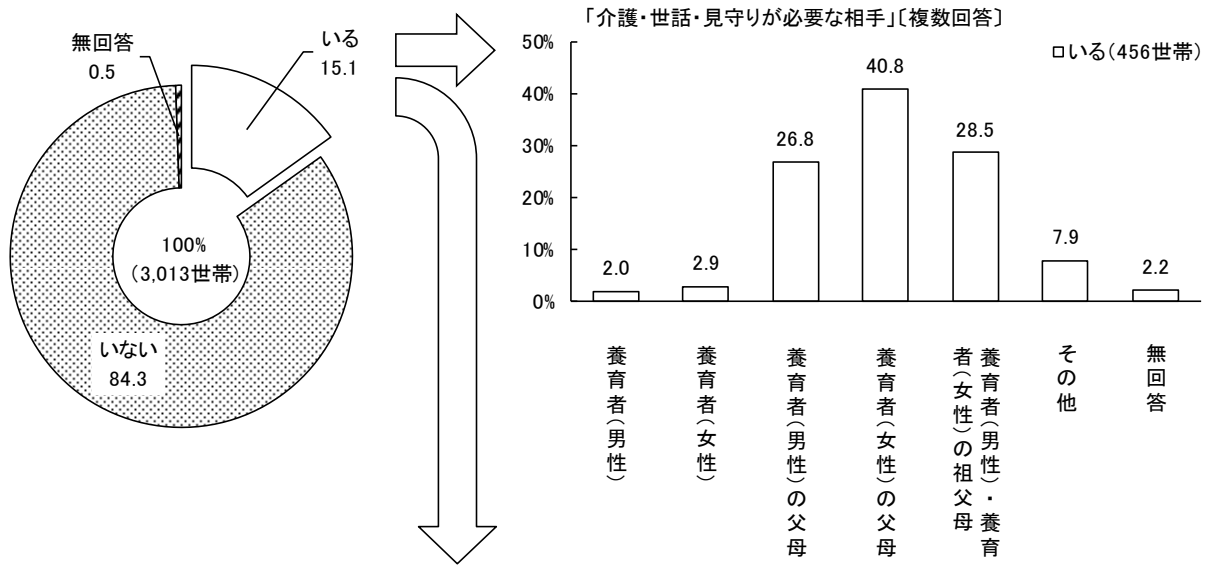


(8) 介護・世話・見守りの有無及びその状況〔複数回答〕

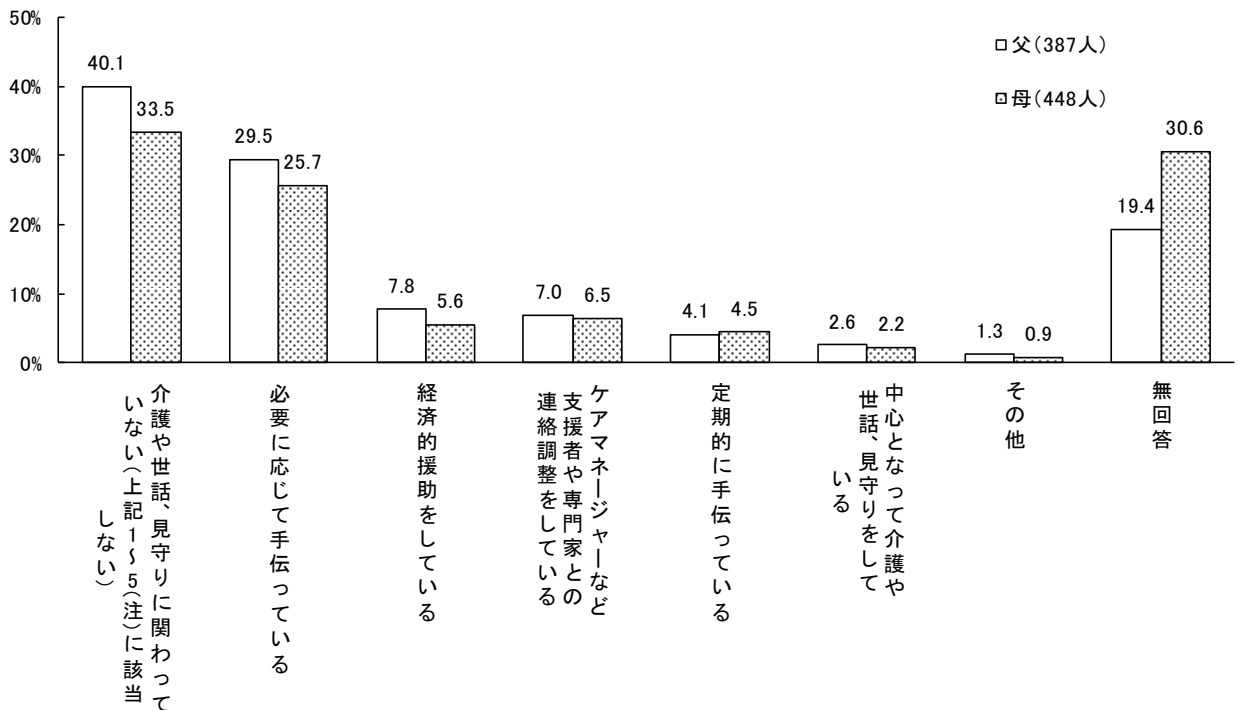
子供以外の親族で、疾病・障害・認知症などの理由により、介護や世話、見守り（※）が必要な人が「いる」と回答した世帯の割合は15.1%となっている。

「いる」と回答した人に、どの程度介護や世話、見守りに関わっているか聞いたところ、「介護や世話、見守りに関わっていない」が父母ともに最も高く、父が40.1%、母が33.5%となっている。次いで、「必要に応じて手伝っている」で父が29.5%、母が25.7%となっている。

※ 直接的な介護だけではなく、経済的援助やケアマネージャーとの連絡調整など間接的な関わりも含む。



「いる」と回答した父・母の介護・世話・見守りの状況〔複数回答〕

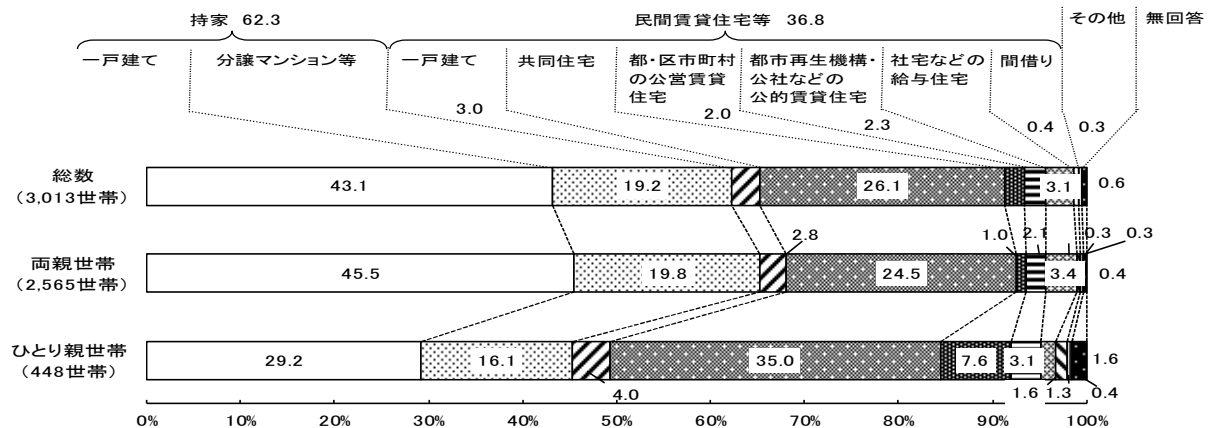


(注) 「上記1~5」とは、「中心となって介護や世話、見守りをしている」、「定期的には手伝っている」、「必要に応じて手伝っている」、「ケアマネージャーなど支援者や専門家との連絡調整をしている」、「経済的援助をしている」を指す。

(9) 住居の種類

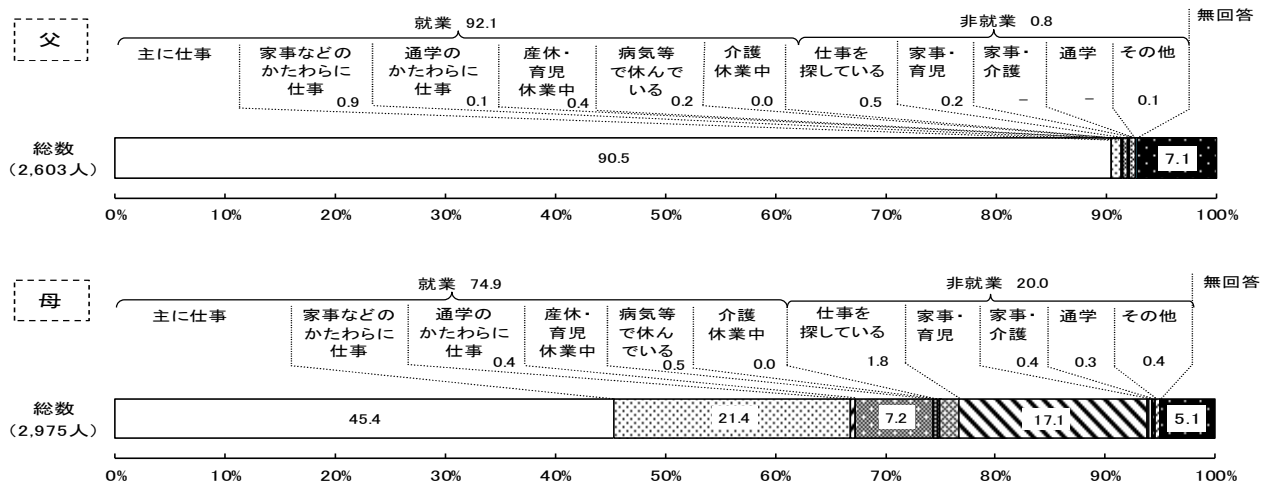
住居の種類は、「持家（一戸建て）」の割合が43.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」が26.1%となっている。

両親・ひとり親世帯別にみると、両親世帯では「持家（一戸建て）」の割合が45.5%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」が24.5%となっている。ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が35.0%で最も高く、次いで「持家（一戸建て）」が29.2%となっている。



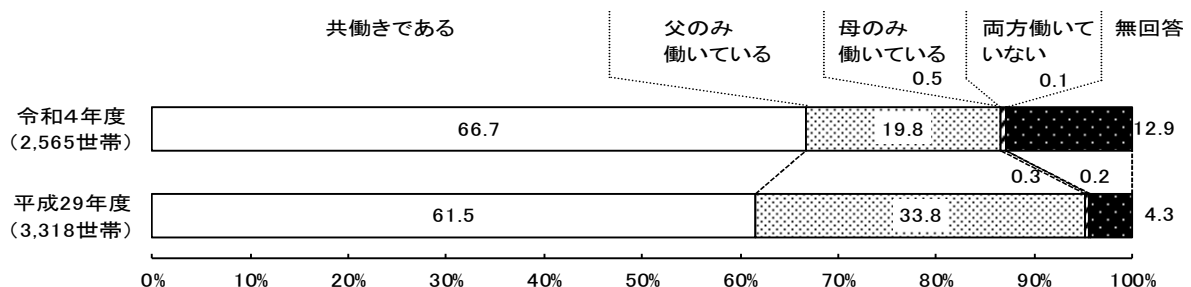
(10) 就業状況

就業状況を見ると、「就業」の割合は、父は92.1%となっている。一方、母の「就業」の割合は74.9%となっている。



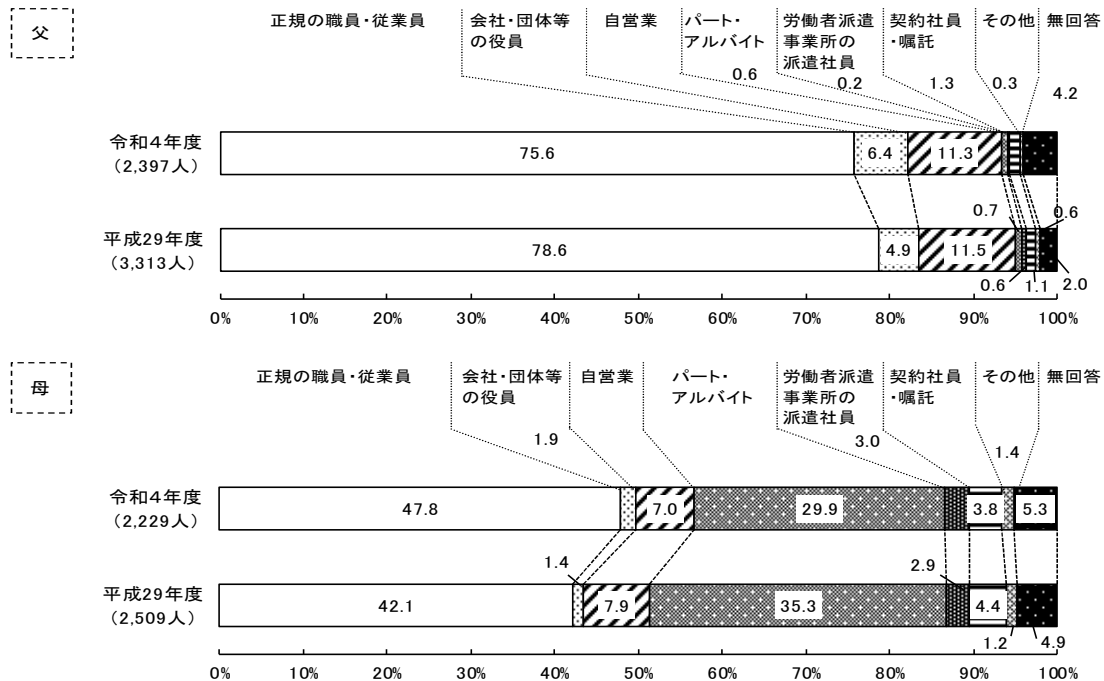
(11) 共働きの状況

両親世帯のうち、共働きである割合は66.7%で、29年度調査(61.5%)に比べて5.2ポイント増加している。



(12) 従業上の地位

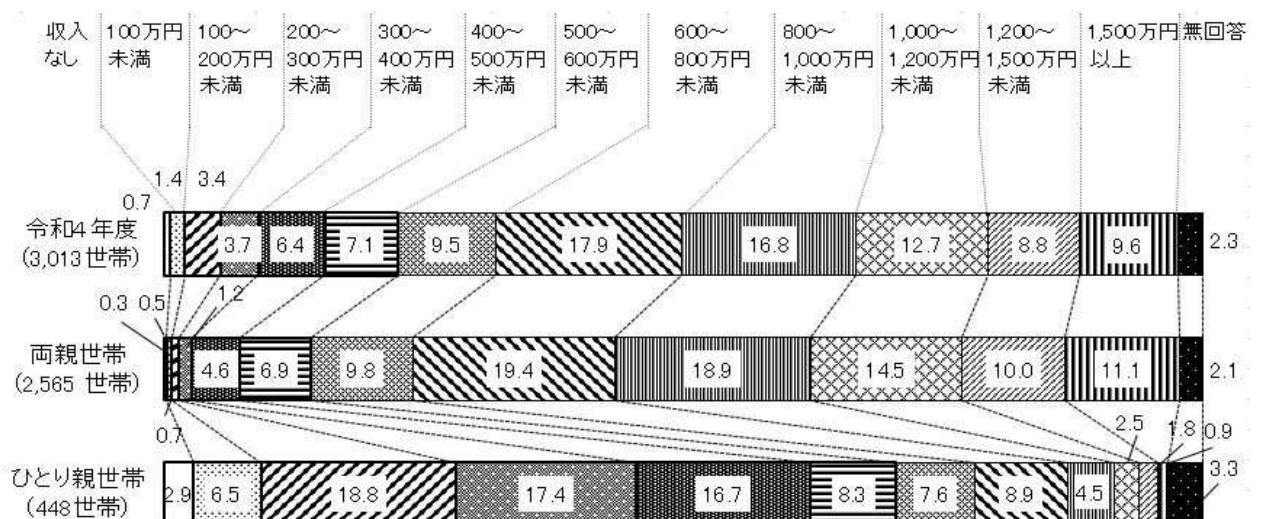
従業上の地位は、父母ともに「正規の職員・従業員」の割合が最も高くなっており、父が75.6%、母が47.8%となっている。母の従業上の地位については、「正規の職員・従業員」の割合が29年度調査(42.1%)に比べて5.7ポイント増加している一方、「パート・アルバイト」の割合は29.9%で、29年度調査(35.3%)に比べ5.4ポイント減少している。



(13) 世帯の年間収入

世帯の年間収入は、「600～800万円未満」の割合が17.9%で最も高く、次いで「800～1,000万円未満」が16.8%、「1,000～1,200万円未満」が12.7%となっている。

両親・ひとり親世帯別にみると、両親世帯では「600～800万円未満」の割合が19.4%で最も高く、次いで「800～1,000万円未満」が18.9%となっている。ひとり親世帯では「100～200万円未満」の割合が18.8%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が17.4%となっている。



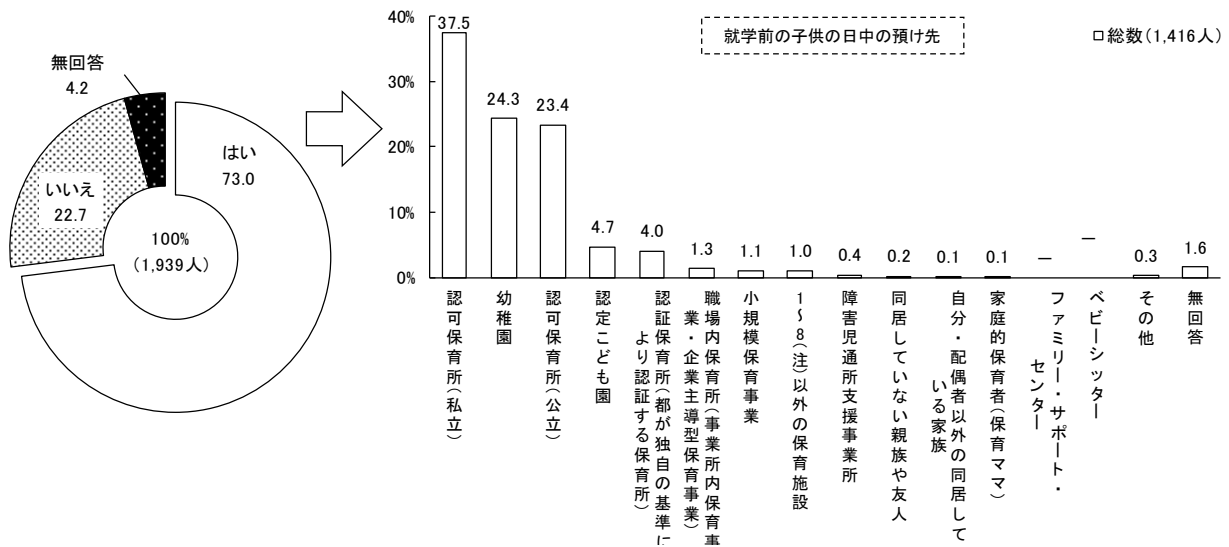
2 就学前の子供がいる世帯

就学前の子供がいる 1,515 世帯とその就学前の子供 1,939 人の状況について聞いた。

(1) 自分・配偶者以外が日中の世話をしている子供の状況

① 日中の子供の預け先（主なところ）

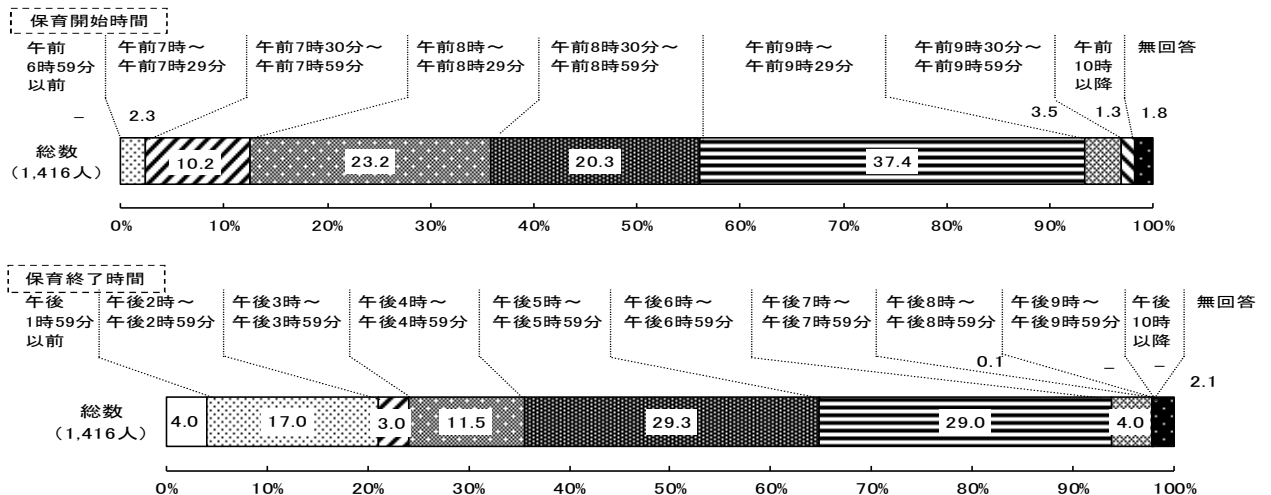
就学前の子供（1,939 人）について、平日の日中、通園させたり預けたりしているか聞いたところ、「はい」の割合は 73.0%となっている。平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,416 人）の主な預け先は、「認可保育所（私立）」が 37.5%で最も高く、次いで「幼稚園」が 24.3%、「認可保育所（公立）」が 23.4%となっている。



(注) 「1～8」とは、「幼稚園」、「認可保育所（公立）」、「認可保育所（私立）」、「認証保育所（都が独自の基準により認証する保育所）」、「認定こども園」、「小規模保育事業」、「職場内保育所（事業所内保育事業・企業主導型保育事業）」、「ファミリー・サポート・センター」を指す。

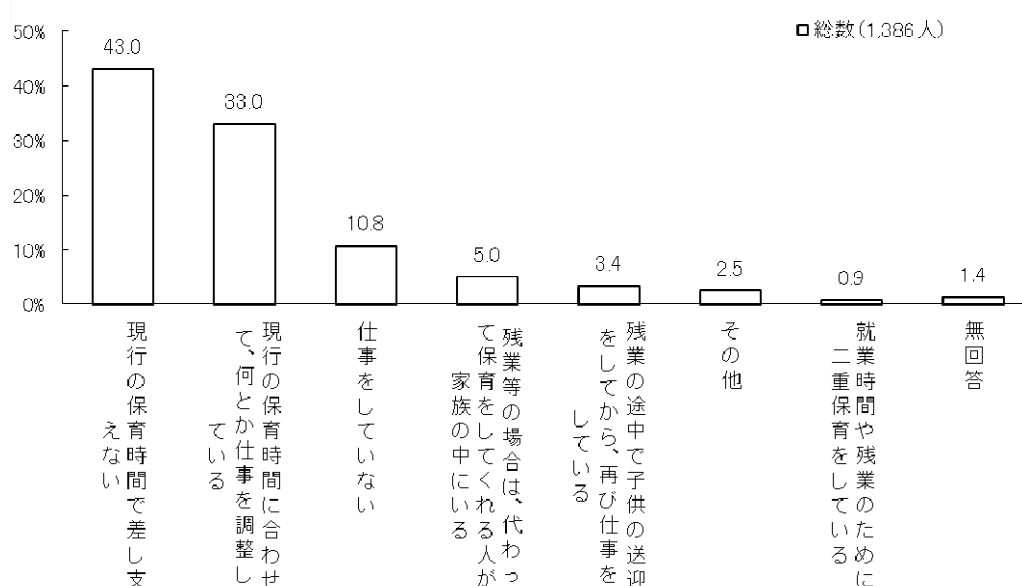
② 預け先の保育開始時間と終了時間（主なところ）

子供の預け先の保育開始時間は、「午前 9 時～午前 9 時 29 分」の割合が 37.4%で最も高く、次いで「午前 8 時～午前 8 時 29 分」が 23.2%となっている。保育終了時間は、「午後 5 時～午後 5 時 59 分」の割合が 29.3%で最も高く、次いで「午後 6 時～午後 6 時 59 分」が 29.0%となっている。



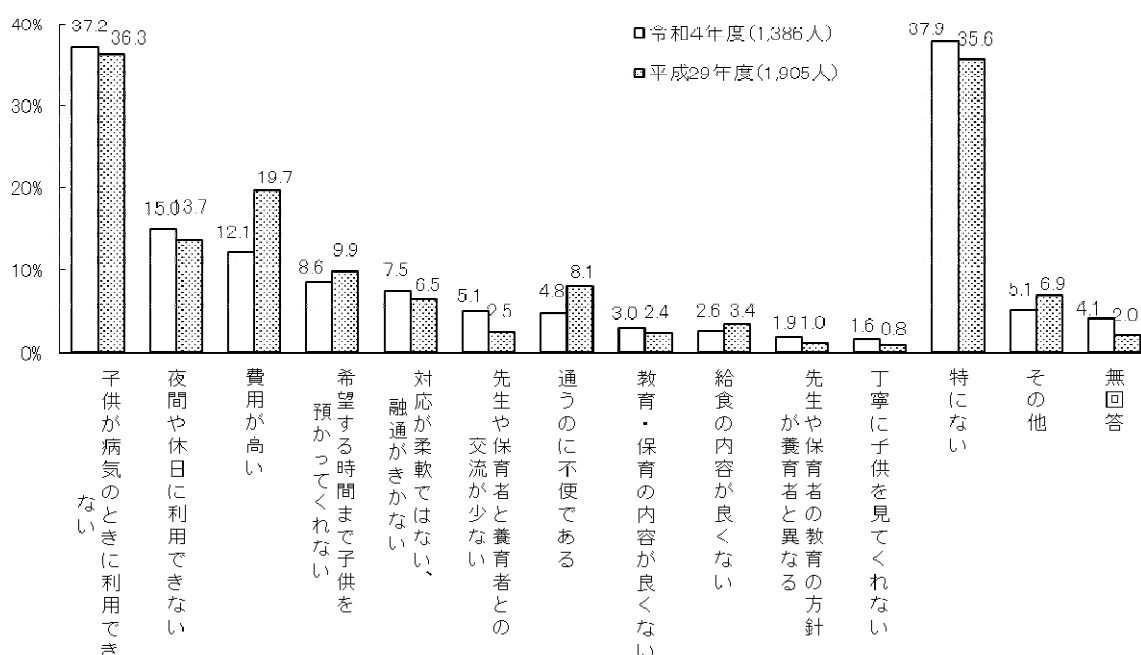
③ 保育時間と勤務時間の関係

平日の日中の預け先が、「自分・配偶者以外の同居している家族」、「同居していない親族や友人」、「その他」、「無回答」以外である子供（1,386人）について、保育時間と勤務時間の関係はどのようなになっているかを聞いたところ、「現行の保育時間で差し支えない」と回答した割合が43.0%で最も高く、次いで「現行の保育時間に合わせて、何とか仕事を調整している」が33.0%となっている。



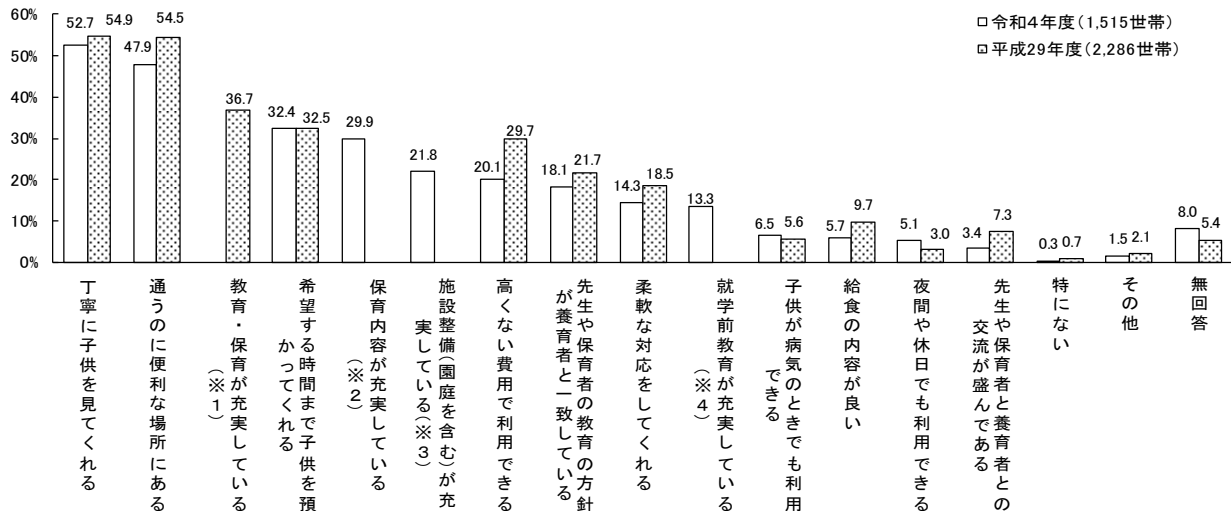
④ 子供を預けていて困ることや不満に思うこと〔複数回答〕

平日の日中の預け先が、「自分・配偶者以外の同居している家族」、「同居していない親族や友人」、「その他」、「無回答」以外である子供（1,386人）について、主な預け先に関して困ることや不満に思うことを聞いたところ、「子供が病気のとくに利用できない」の割合が37.2%で最も高くなっている。一方、「特にない」の割合は37.9%となっている。



(2) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

就学前の子供がいる 1,515 世帯に、子供の預け先を選ぶ際に重視することを聞いたところ、「丁寧に子供を見てくれる」の割合が 52.7%で最も高く、次いで「通うのに便利な場所にある」が 47.9%、「希望する時間まで子供を預かってくれる」が 32.4%となっている。

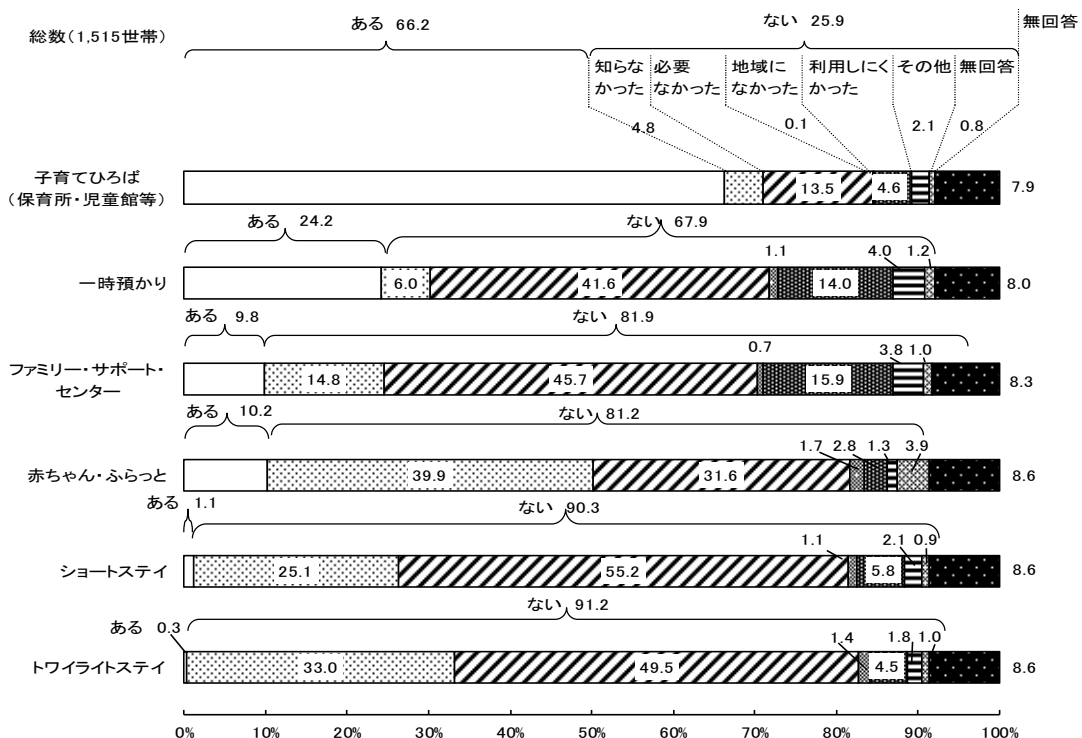


(注1) ※1は、令和4年度調査では選択肢を設けていない。

(注2) ※2、3、4は、平成29年度調査では選択肢を設けていなかった。

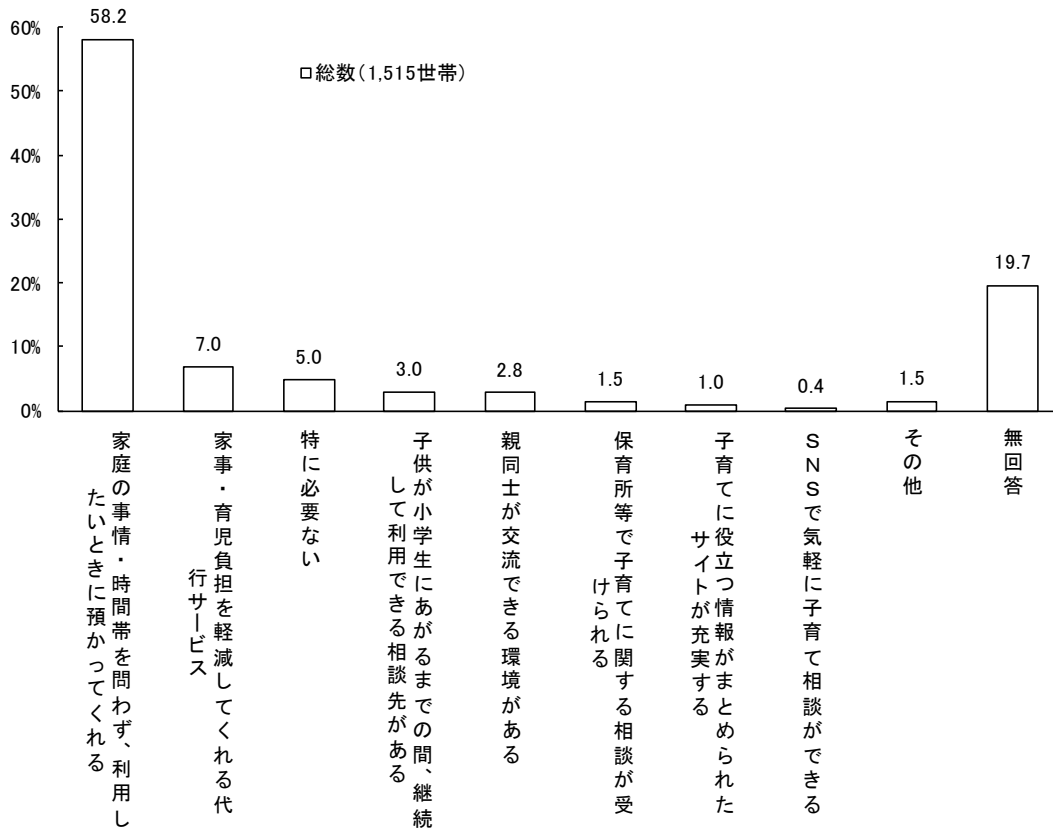
(3) 子育て支援サービスの利用の有無及び利用しない理由

就学前の子供がいる 1,515 世帯に、子育て支援サービスの利用の有無について聞いたところ、利用したことが「ある」の割合は、「子育てひろば(保育所・児童館等)」が最も高く、66.2%となっている。一方、利用したことが「ない」理由が「知らなかったから」の割合は、「赤ちゃん・ふらっと」が最も高く、39.9%となっている。



(4) あればよいと思う在宅支援サービス

就学前の子供がいる 1,515 世帯に、養育者自身で平日の日中も子育てを行う家庭に対し、どのような在宅支援サービスがあればよいと思うか聞いたところ、「家庭の事情・時間帯を問わず、利用したいときに預かってくれる」の割合が 58.2%で最も高くなっている。

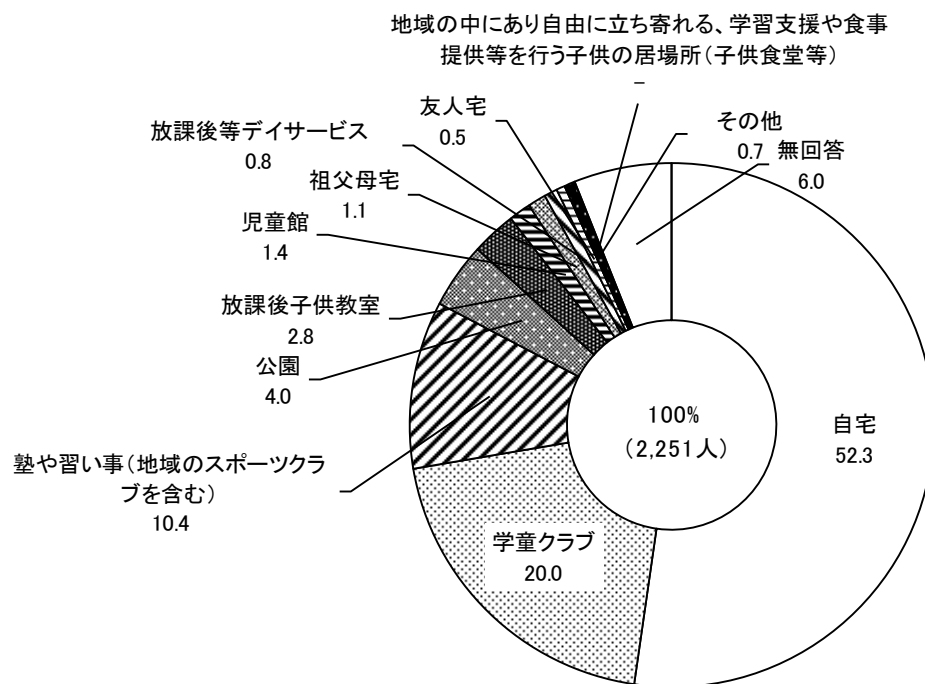


3 小学生の子供がいる世帯

小学生の子供がいる 1,780 世帯とその小学生の子供 2,251 人の状況について聞いた。

(1) 放課後主に過ごしている場所

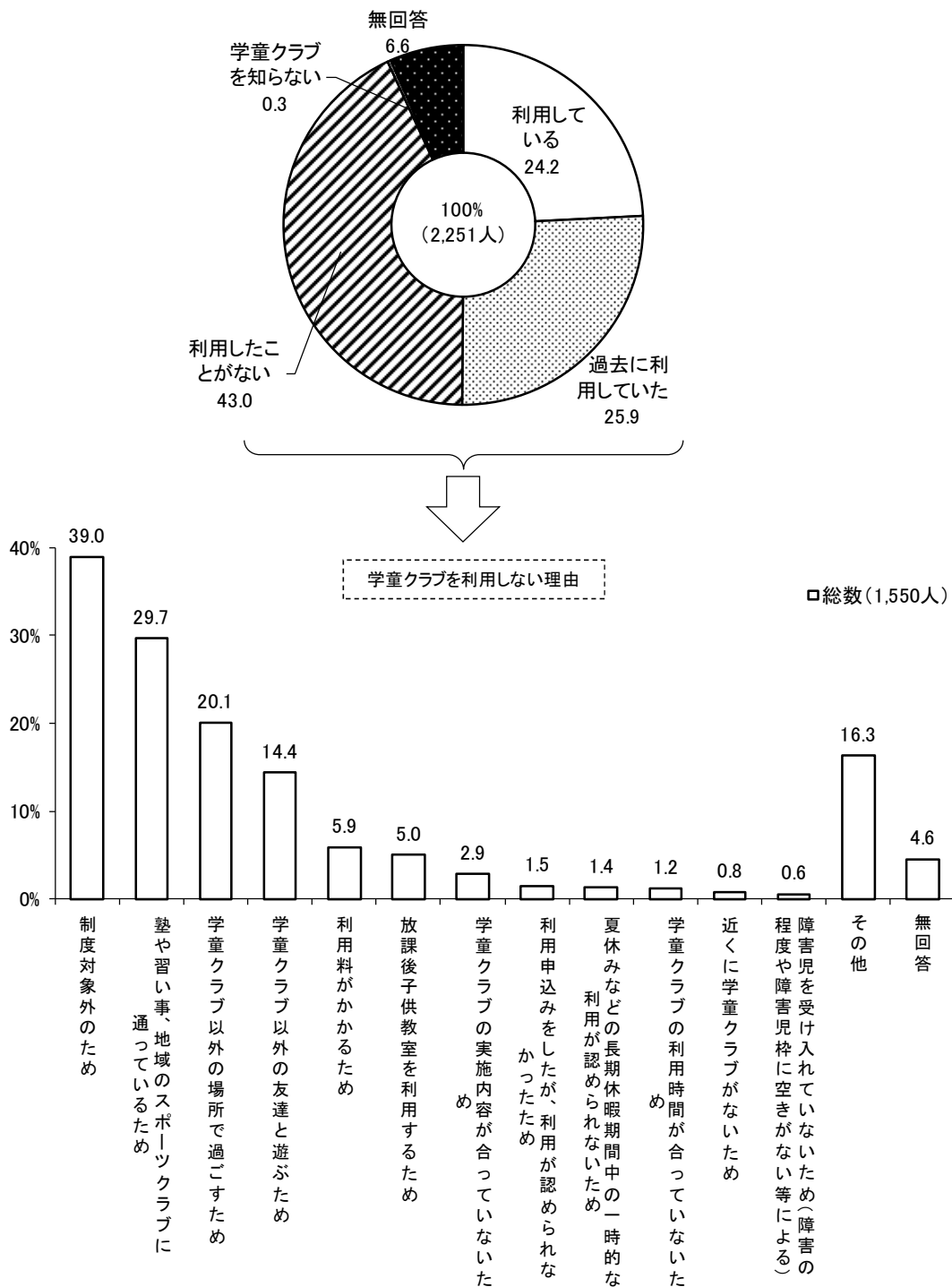
放課後主に過ごしている場所について聞いたところ、「自宅」の割合が 52.3%で最も高く、次いで「学童クラブ」が 20.0%、「塾や習い事（地域のスポーツクラブを含む）」が 10.4%となっている。



(2) 学童クラブの利用の有無及び学童クラブを利用しない理由〔複数回答〕

学童クラブの利用状況について聞いたところ、小学生の子供2,251人のうち、「利用している」の割合は24.2%となっている。

学童クラブを「過去に利用していた」人(583人)と、今まで「利用したことがない」人(967人)に学童クラブを利用しない理由を聞いたところ、「制度の対象外のため」の割合が39.0%と最も高く、次いで「塾や習い事、地域のスポーツクラブに通っているため」が29.7%となっている。

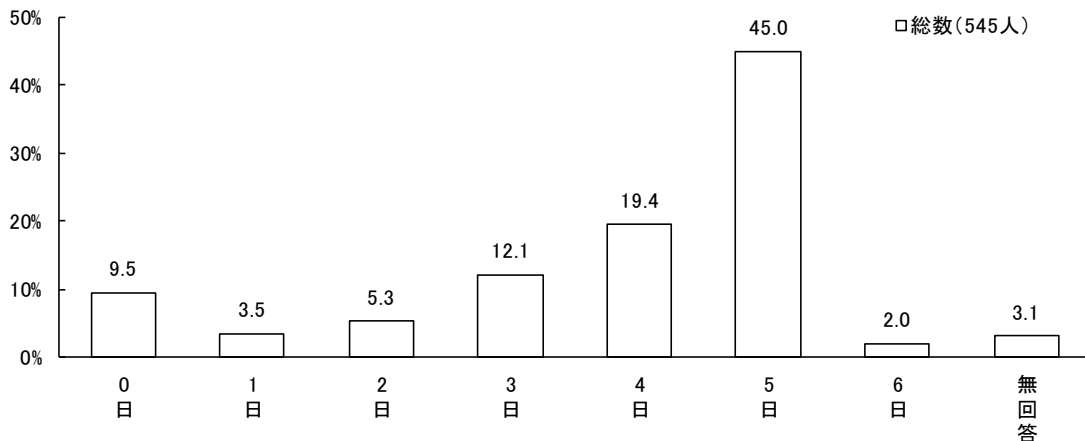


(3) 学童クラブの利用状況等について

学童クラブを「利用している」489世帯とその小学生の子供545人の学童クラブの利用状況について聞いた。

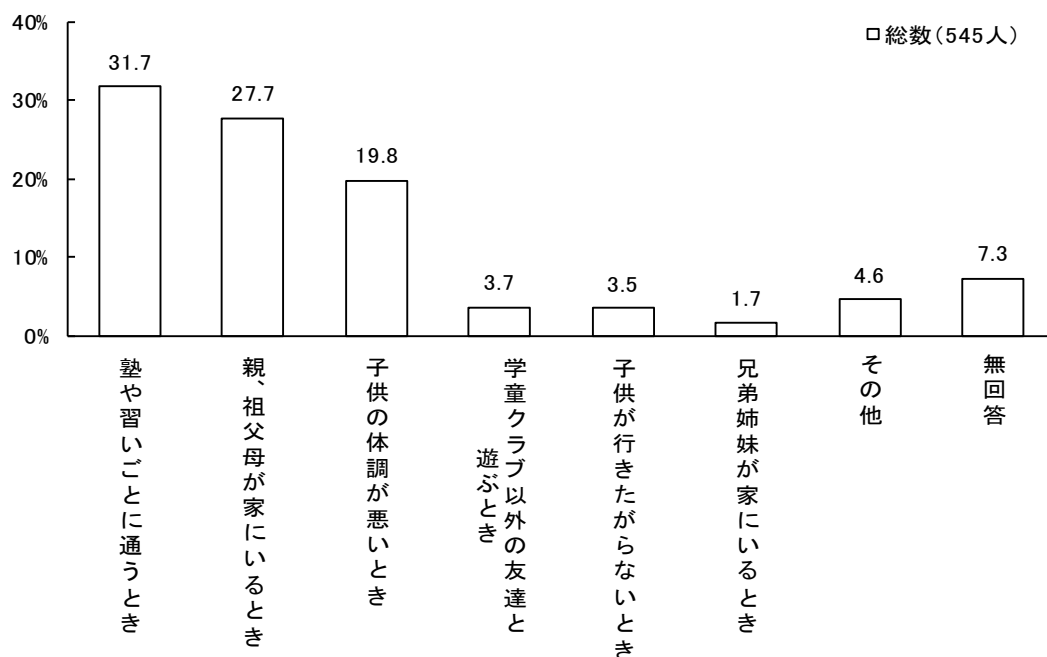
① 学童クラブの出席日数

学童クラブで過ごしている子供(545人)について、学童クラブの1週間の出席日数を聞いたところ「5日」の割合が45.0%で最も高く、次いで「4日」の割合が19.4%となっている。



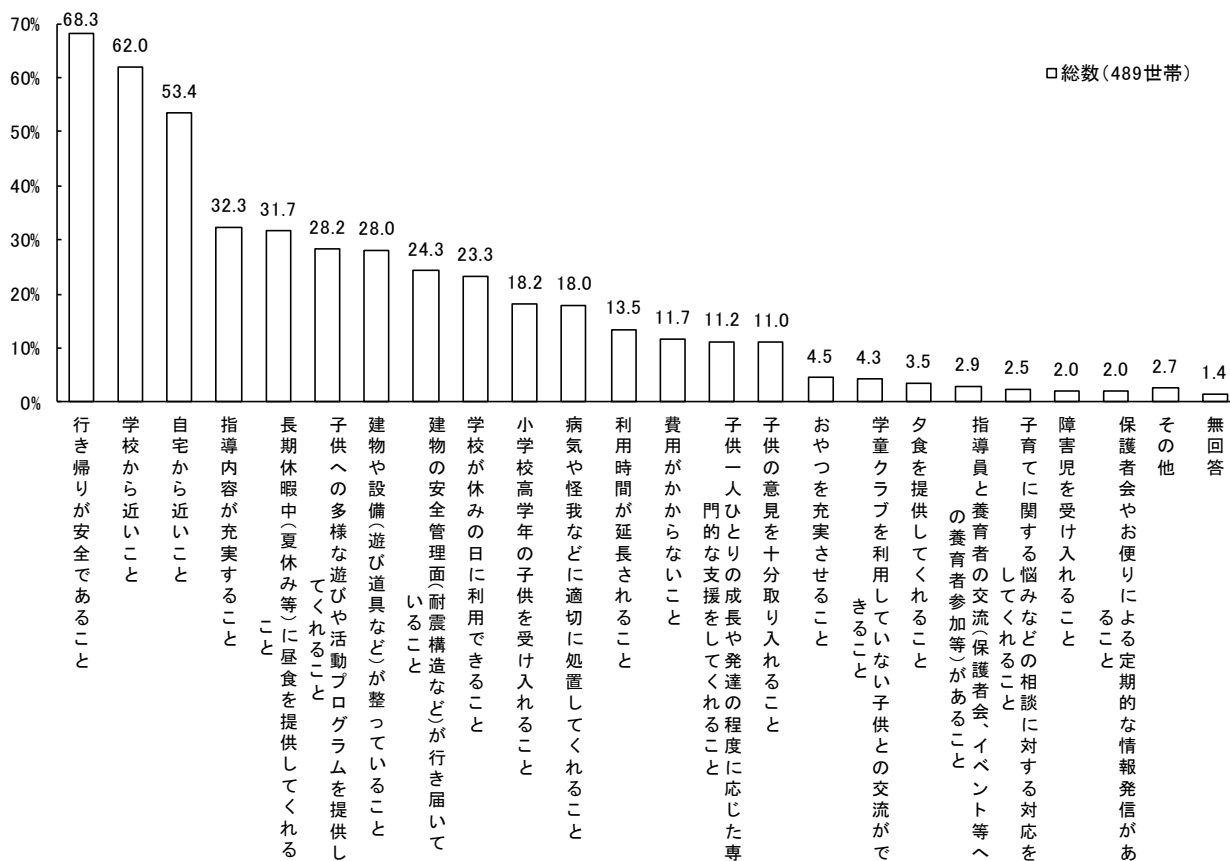
② 学童クラブを欠席するときの理由

学童クラブで過ごしている子供(545人)について、学童クラブを欠席する主な理由を聞いたところ、「塾や習い事に通うとき」が31.7%で最も高く、次いで「親、祖父母が家にいるとき」が27.7%、「子供の体調が悪いとき」が19.8%となっている。



③ 学童クラブに望むこと〔複数回答〕

学童クラブで過ごしている子供がいる世帯（489 世帯）に学童クラブに望むことを聞いたところ、「行き帰りが安全であること」の割合が 68.3%で最も高く、次いで「学校から近いこと」が 62.0%、「自宅から近いこと」が 53.4%となっている。



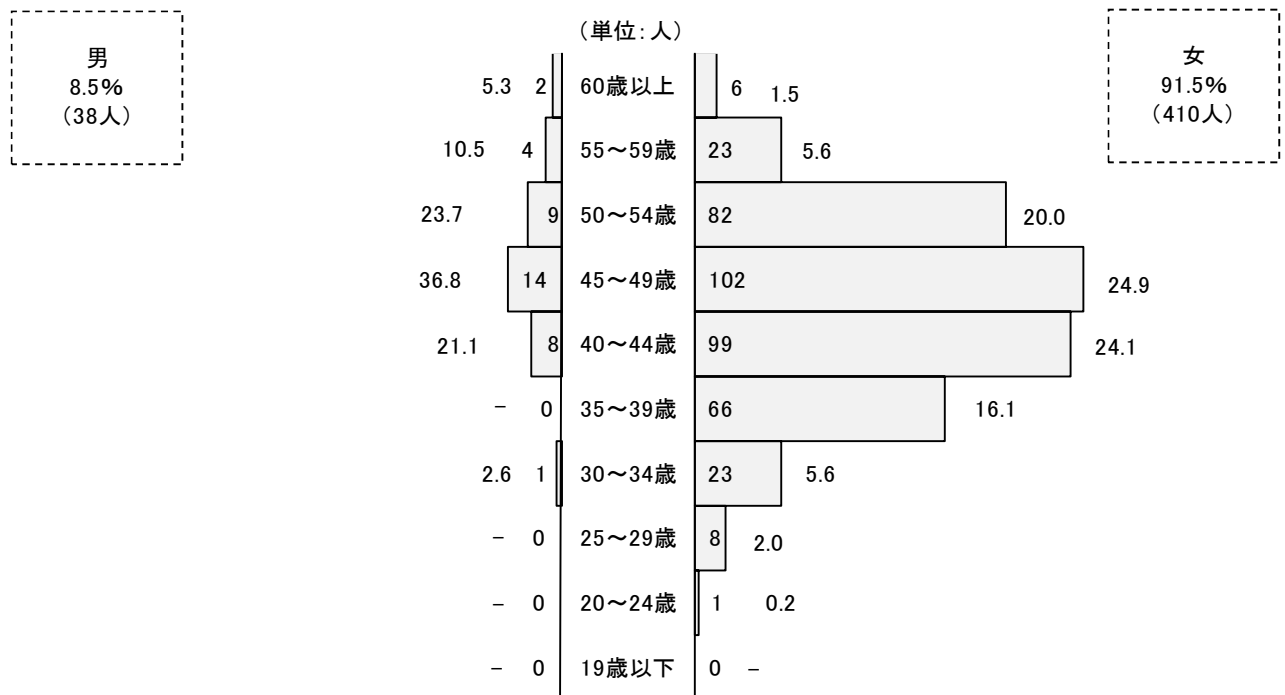
4 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

20歳未満の子供を養育するひとり親 448 世帯（父子世帯 38 世帯、母子世帯 410 世帯）の状況について聞いた。

（1）ひとり親世帯の状況

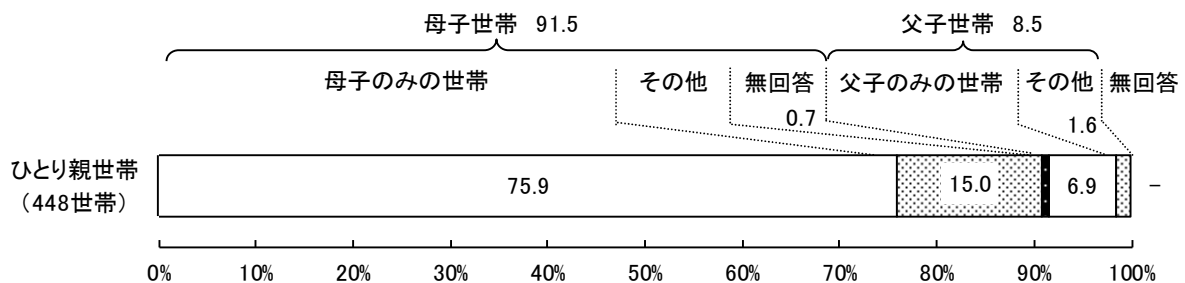
① 父母の性・年齢階級

ひとり親世帯の父母の人数を年齢階級別にみると、父子世帯、母子世帯共に「45～49歳」が最も多く、父子世帯は14人、母子世帯は102人となっている。



② 世帯類型（母子・父子世帯別）

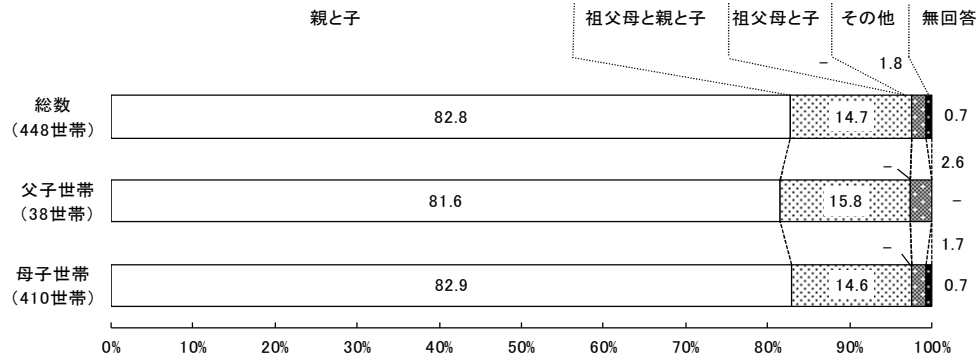
世帯類型は、母子世帯が91.5%、父子世帯が8.5%となっている。



③ 家族類型

ひとり親世帯の家族類型は、父子世帯、母子世帯ともに「親と子」の割合が最も高く、父子世帯は81.6%、母子世帯は82.9%となっている。

また、「祖父母と親と子」の割合は、父子世帯は15.8%、母子世帯は14.6%となっている。

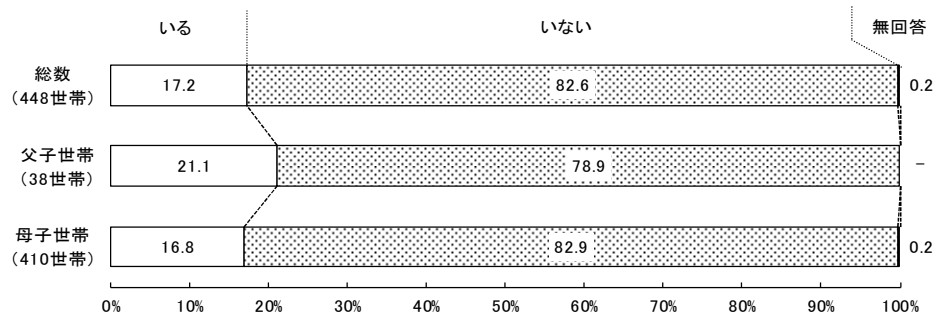


④ 介護・世話・見守りの有無

子供以外の親族で、疾病・障害・認知症などの理由により、介護や世話、見守り（※）が必要な人が「いる」と回答した世帯の割合は、父子世帯で21.1%、母子世帯で16.8%となっている。

※ 直接的な介護だけではなく、経済的

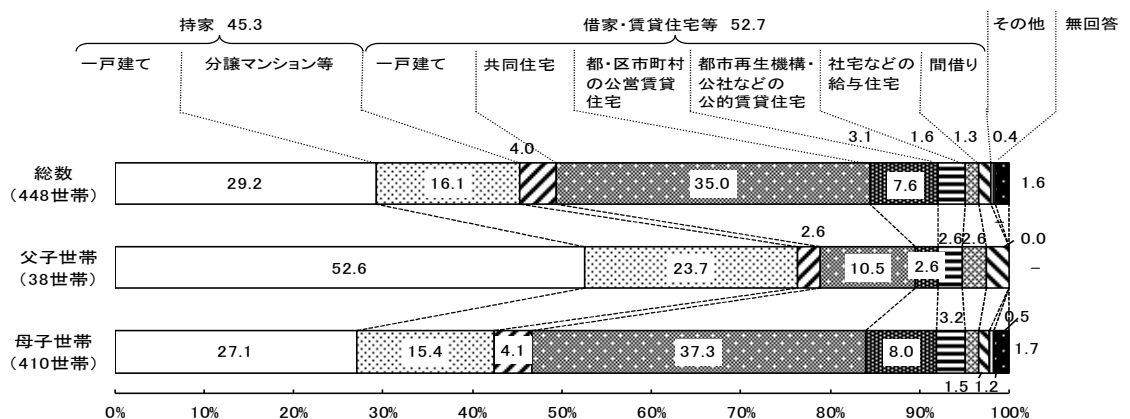
援助やケアマネージャーとの連絡調整など間接的な関わりも含む。



⑤ 住居の種類

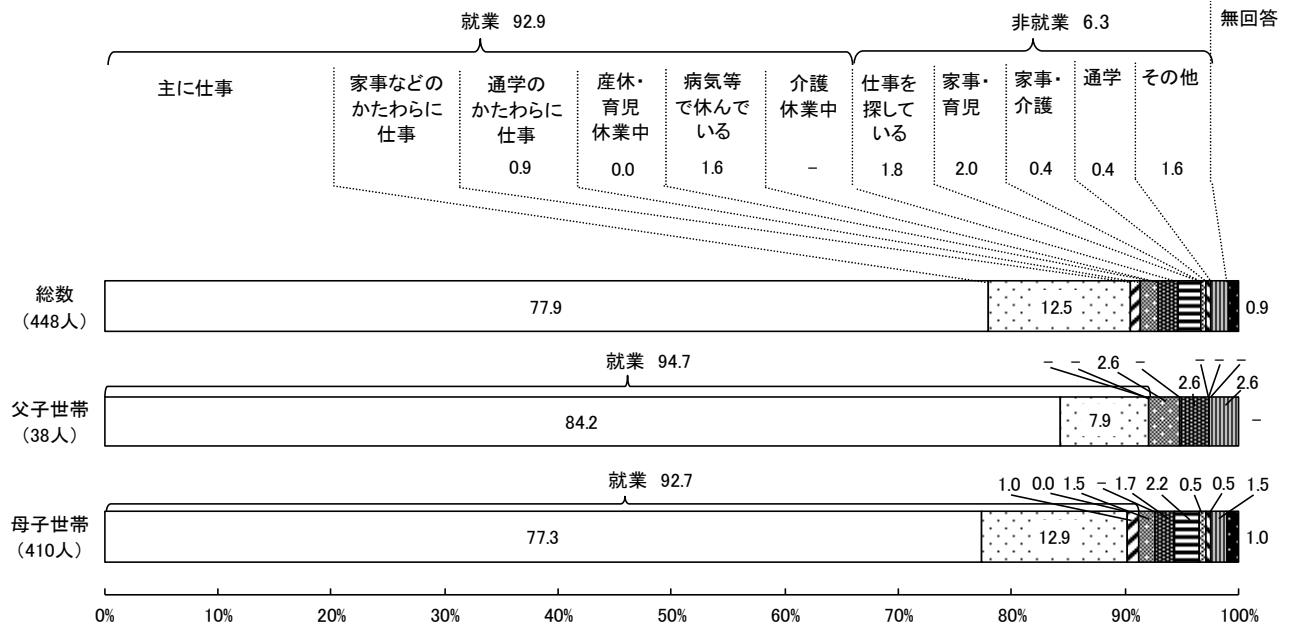
ひとり親世帯の住居の種類をみると、父子世帯では、「持家(一戸建て)」の割合が最も高く52.6%、次いで「持家(分譲マンション等)」が23.7%となっている。

一方、母子世帯では「民間賃貸住宅(共同住宅)」の割合が37.3%と最も高く、次いで「持家(一戸建て)」が27.1%となっている。



⑥ 就業状況

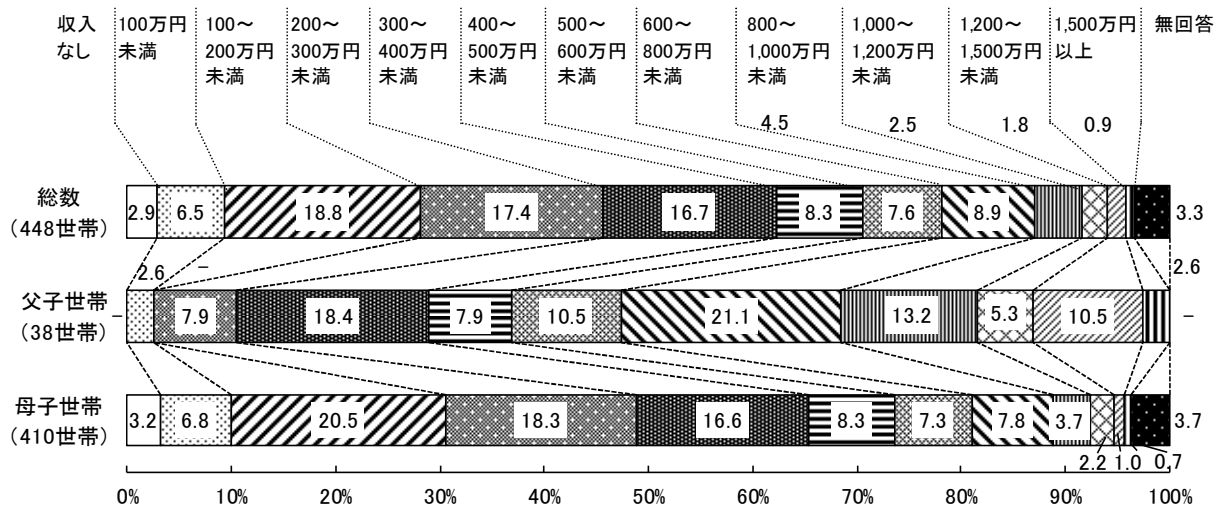
ひとり親世帯の就業状況を見ると、「就業」の割合は、父子世帯は 94.7%、母子世帯は 92.7% となっている。



⑦ 世帯の年間収入

ひとり親世帯の年間収入は、父子世帯では「600～800万円未満」の割合が最も高く、21.1%となっている。

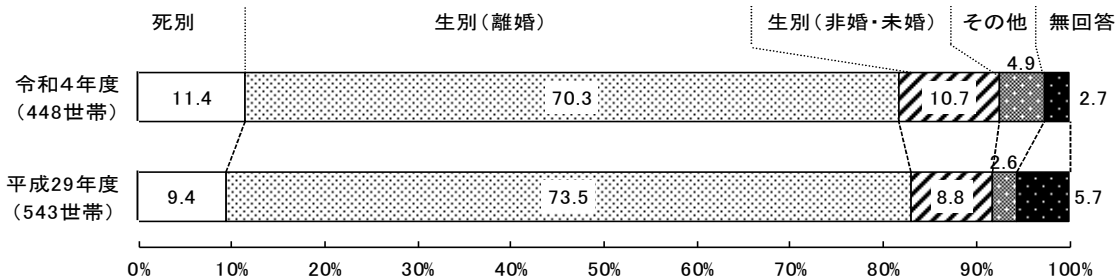
一方、母子世帯では「100～200万円未満」の割合が最も高く、20.5%となっている。



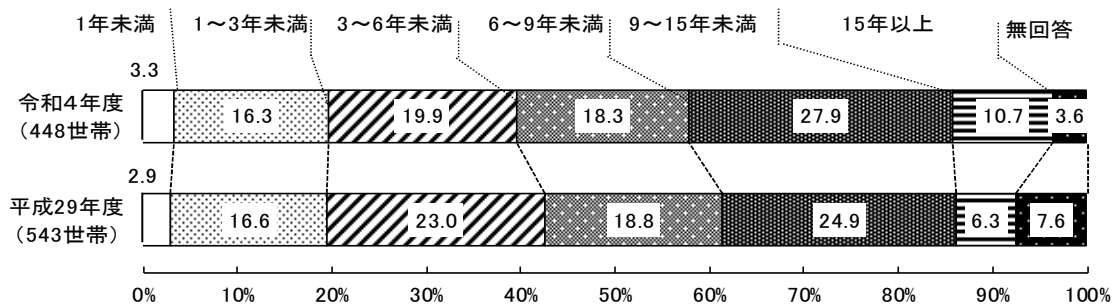
(2) ひとり親になった理由及び年数

ひとり親になった理由は、「離婚」の割合が最も高く、70.3%となっている。また、ひとり親になってからの年数は、「9～15年未満」の割合が27.9%で最も高く、次いで「3～6年未満」が19.9%となっている。

ひとり親になった理由



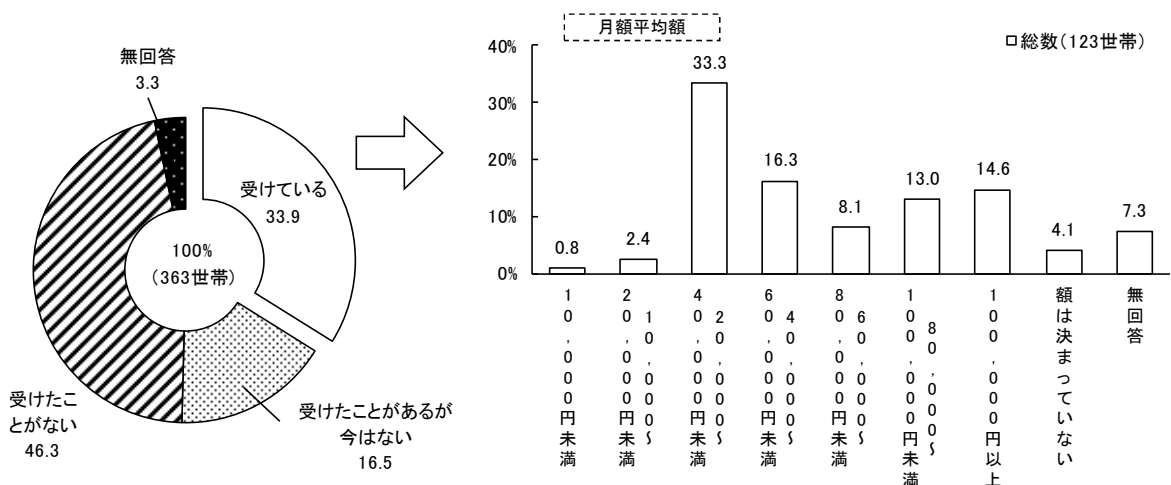
ひとり親になってからの年数



(3) 養育費受取りの有無とその金額

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である世帯(363世帯)に、離別した相手から養育費を受けているか聞いたところ、「受けている」の割合は33.9%となっている。

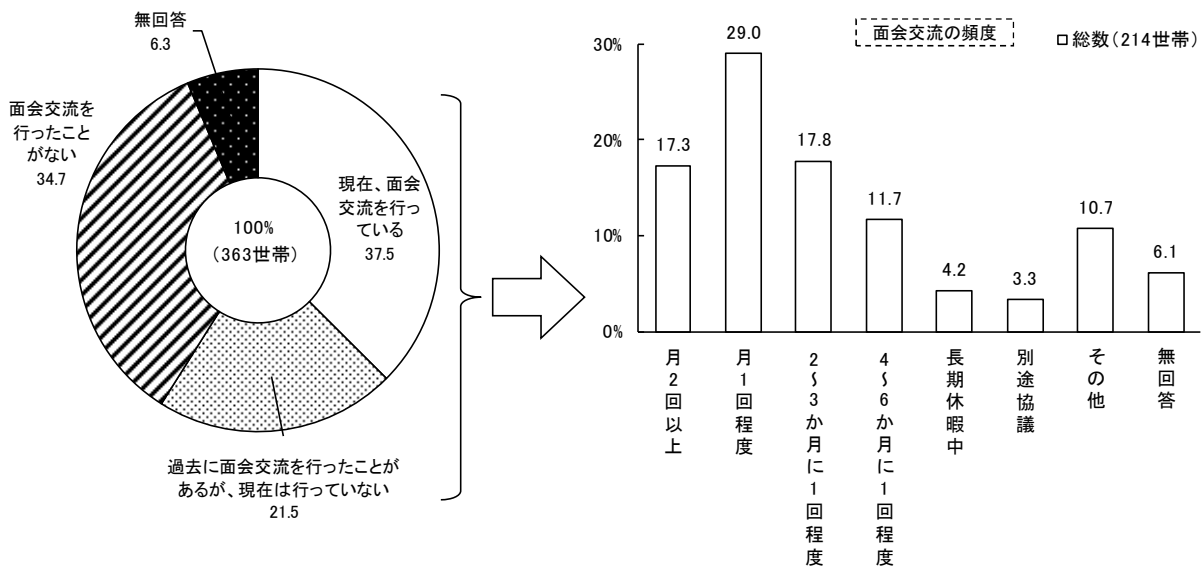
さらに、養育費を「受けている」世帯(123世帯)に1か月の金額(月額平均額)を聞いたところ、「20,000～40,000円未満」の割合が33.3%で最も高く、次いで「40,000～60,000円未満」が16.3%、「100,000円以上」が14.6%となっている。



(4) 面会交流の有無とその頻度

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である世帯（363世帯）に、面会交流を実施しているか聞いたところ、「現在、面会交流を行っている」の割合は37.5%、「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」の割合は21.5%となっている。

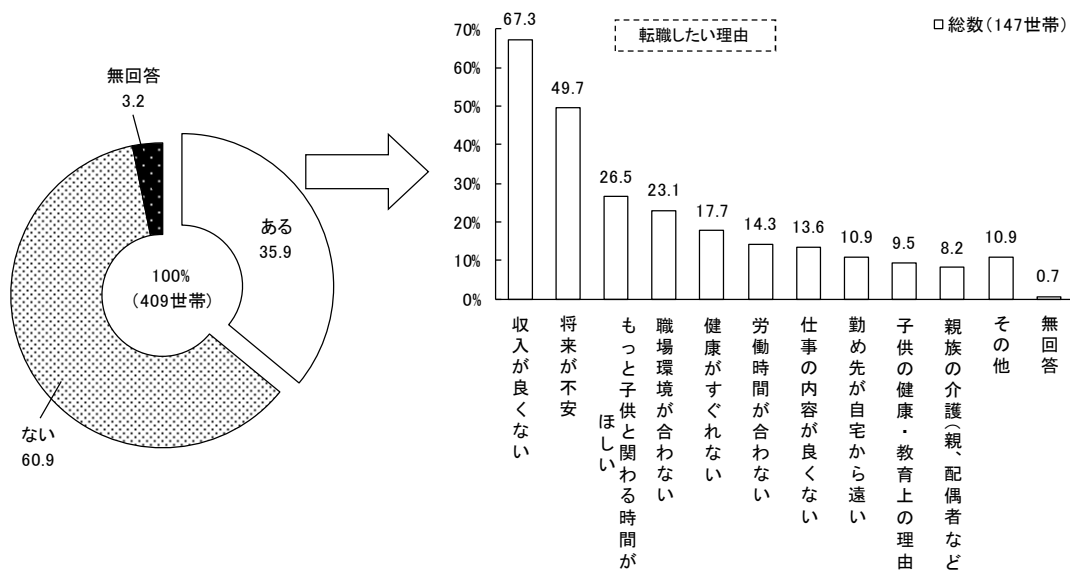
さらに、「現在、面会交流を行っている」世帯（136世帯）及び「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」世帯（78世帯）にその頻度を聞いたところ、「月1回程度」の割合が29.0%で最も高く、次いで「2～3か月に1回程度」が17.8%となっている。



(5) 転職の希望〔複数回答〕

現在働いている（注）ひとり親に転職する希望があるか聞いたところ、希望が「ある」と回答した世帯の割合は35.9%となっている。

さらに、転職したい理由を聞いたところ、「収入が良くない」の割合が67.3%で最も高く、次いで「将来が不安」が49.7%、「もっと子供と関わる時間がほしい」が26.5%となっている。



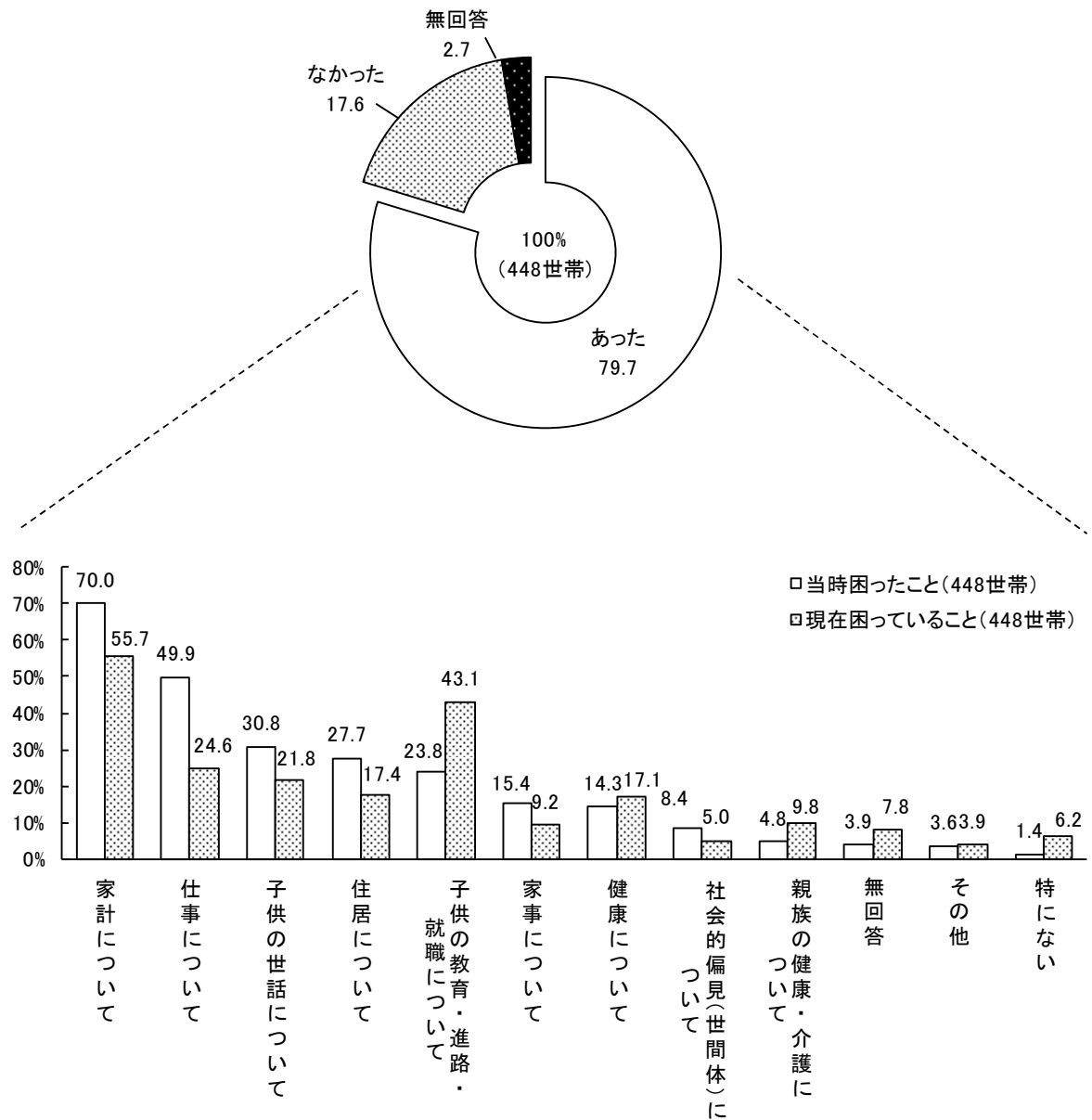
(注) 就労状況の質問で「主に仕事」「家事のかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」のいずれかを選択した方。

(6) ひとり親になった当時又は現在困っていることの有無とその内容〔複数回答〕

暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあったかを聞いたところ、「あった」と回答した世帯の割合は、79.7%となっている。

さらに、困ったことが「あった」世帯（432世帯）に、ひとり親になった当時困ったことを聞いたところ、「家計について」の割合が70.0%で最も高く、次いで「仕事について」が49.9%、「子供の世話について」が30.8%となっている。

また、現在困っていることを聞いたところ、「家計について」の割合が55.7%と最も高く、次いで「子供の教育・進路・就職について」が43.1%、「仕事について」が24.6%となっている。

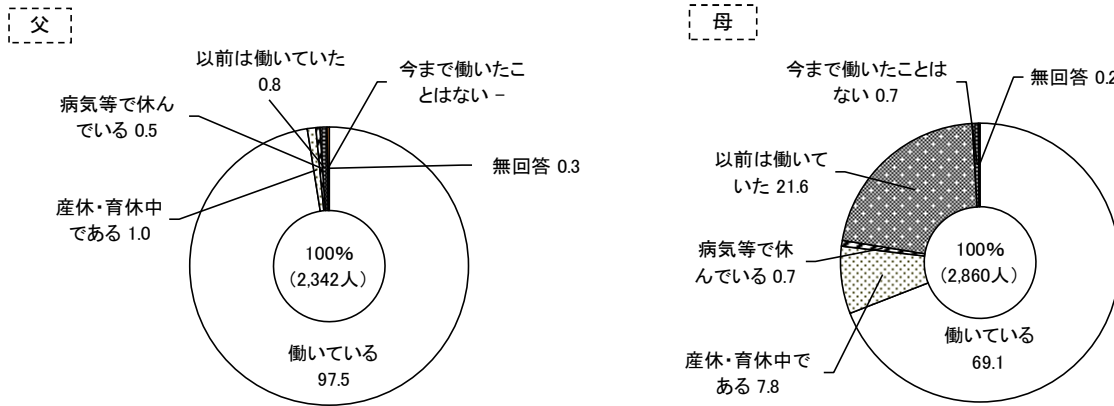


○ 調査票②（意識票）の結果・・・父母（父母の代わりに子供を養育している人も含む）
5,202人（養育者含む）の子育てに関する意識

1 父母の就労の状況

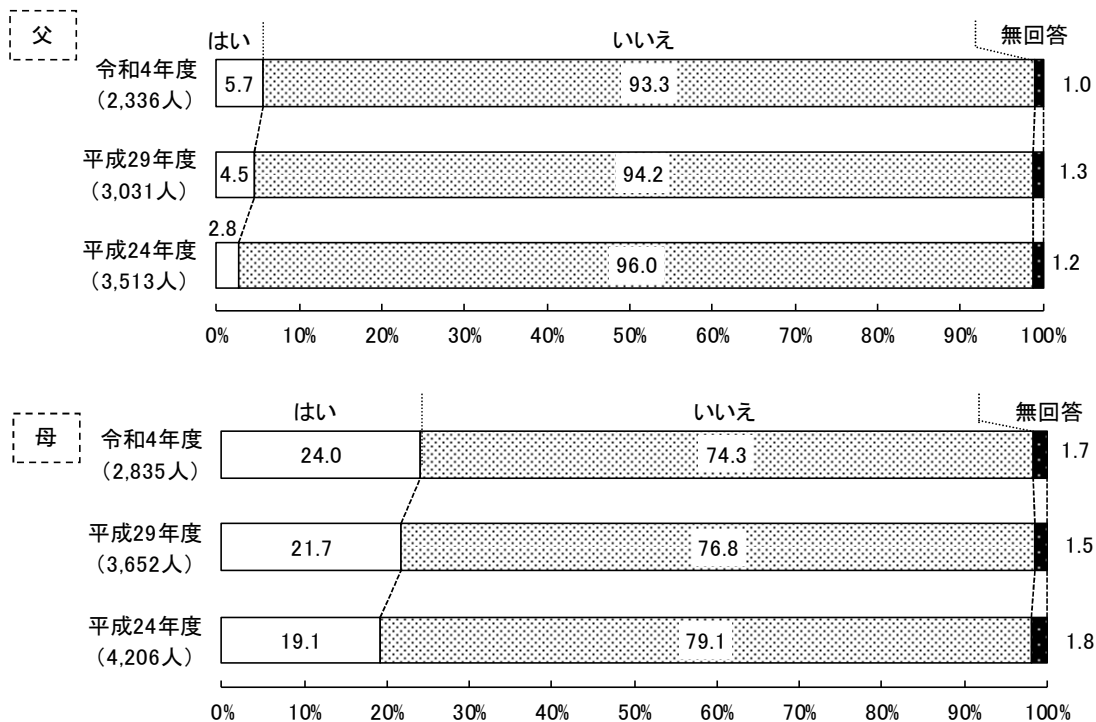
(1) 就労の状況

父母の就労の状況を見ると、「働いている」の割合は、父が97.5%、母が69.1%となっている。



(2) 子育てを理由とした転職の有無

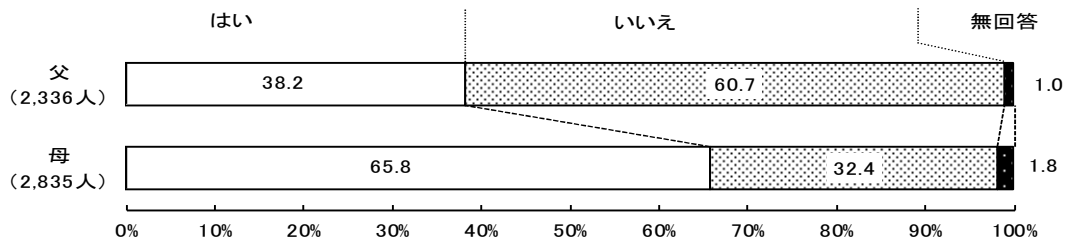
就労の状況について「今まで働いたことはない」と回答した人又は「無回答」の人を除いた、父2,336人、母2,835人に、子育てを理由として転職したことがあるか聞いたところ、「はい」の割合は、父が5.7%、母が24.0%となっている。



(3) 勤務時間の調整

① 勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）の有無

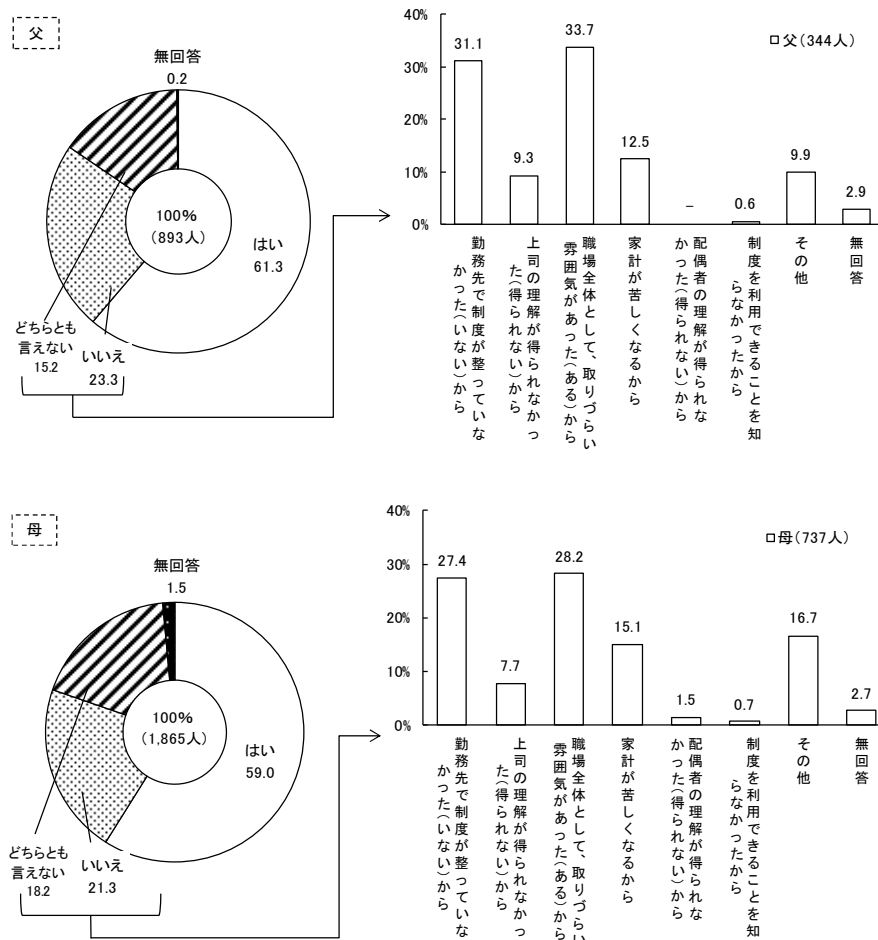
就労の状況について「今まで働いたことはない」と回答した人又は「無回答」の人を除いた、父 2,336 人、母 2,835 人に、子育てを理由に、勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）があるかを聞いたところ、「はい」の割合は、父が 38.2%、母は 65.8%となっている。



② 勤務時間の調整状況及び調整できなかった（できない）理由

勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む）がある、父 893 人、母 1,865 人に、調整は十分できたと思うか聞いたところ、「はい」の割合は、父が 61.3%、母は 59.0%となっている。

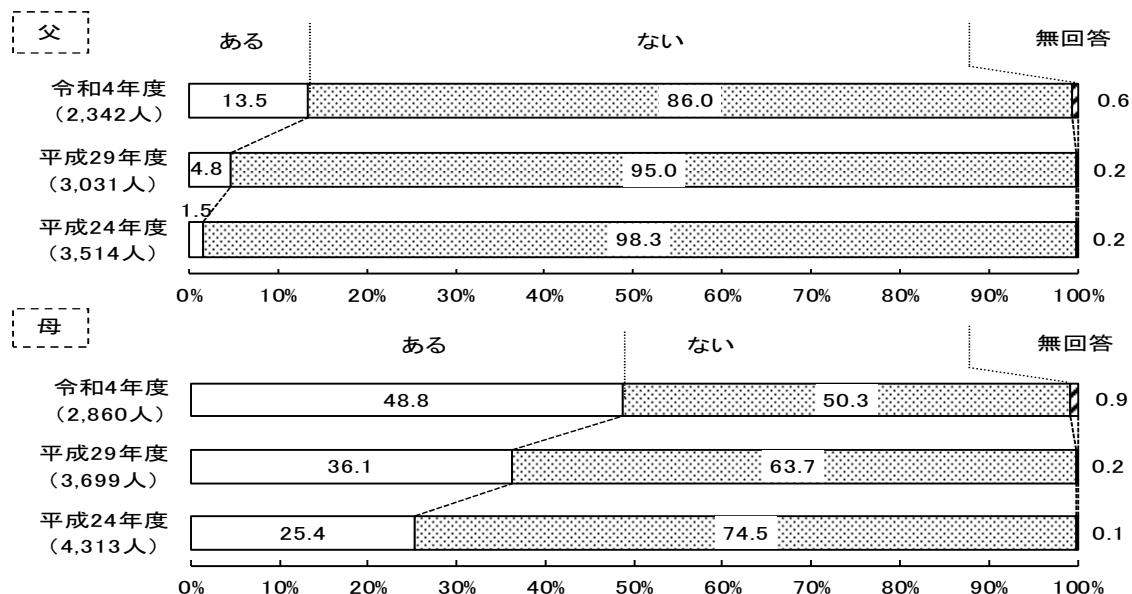
さらに、「いいえ」又は「どちらとも言えない」と回答した、父 344 人、母 737 人に、その理由を聞いたところ、父母ともに「職場全体として、取りづらい雰囲気があった（ある）から」の割合が最も高く、父が 33.7%、母は 28.2%となっている。次いで「勤務先で制度が整っていなかった（いない）から」の割合が高く、父が 31.1%、母は 27.4%となっている。



2 育児休業制度について

(1) 育児休業制度の利用の有無

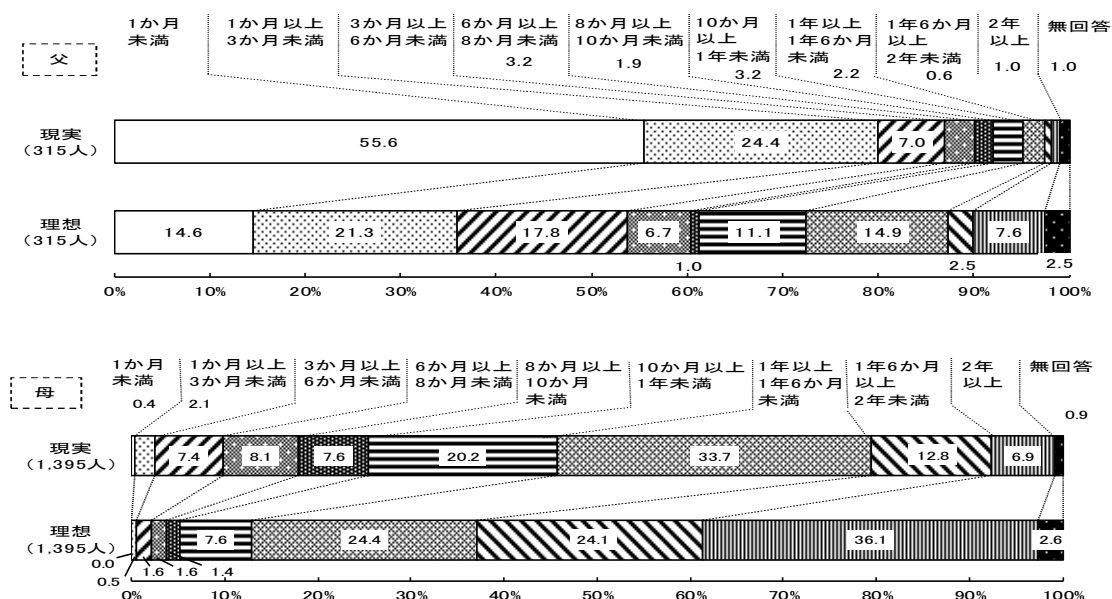
育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」の割合は、父が13.5%、母は48.8%となっている。



(2) 育児休業の取得期間—理想と現実

育児休業制度を利用したことが「ある」父315人、母1,395人に、実際に取得した期間と、自分で育児休業の期間を自由に決められるとしたらどのくらいの期間取りたいかを聞いた。

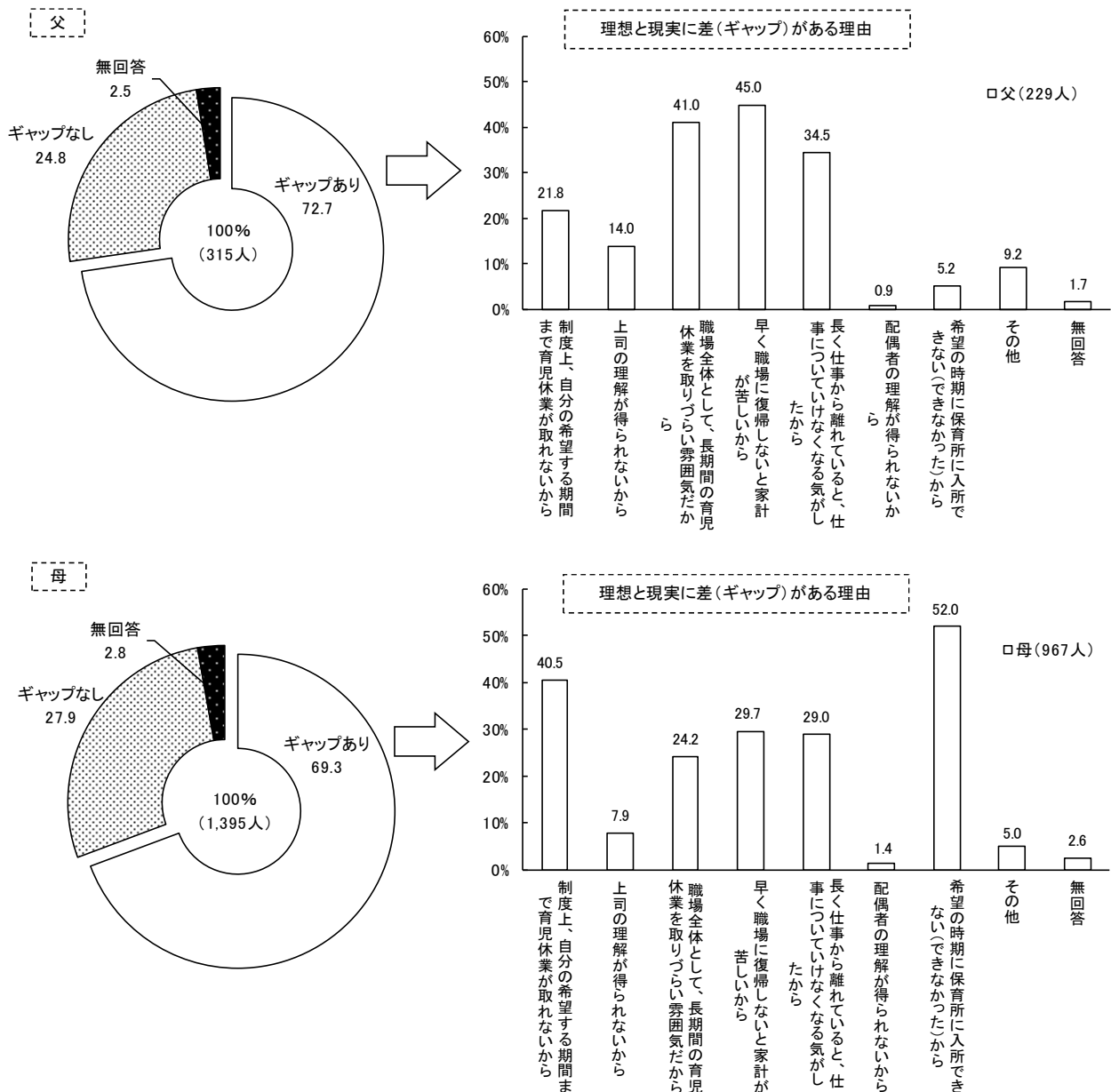
父の理想の取得期間は、「1か月以上3か月未満」の割合が21.3%で最も高く、次いで「3か月以上6か月未満」の割合が17.8%であるのに対し、実際の取得期間は、「1か月未満」の割合が55.6%で最も高くなっている。一方、母の理想の取得期間は、「2年以上」の割合が最も高く36.1%であるのに対し、実際の取得期間は、「1年以上1年6か月未満」の割合が33.7%で最も高くなっている。



(3) 育児休業の取得期間の理想と現実の差（ギャップ）とその理由〔複数回答〕

育児休業を実際に取得した期間と自分が取りたいと思う期間に差（ギャップ）があった父 229 人、母 967 人にその理由を聞いたところ、父は、「早く職場に復帰しないと家計が苦しいから」の割合が 45.0%で最も高く、次いで「職場全体として、長期間の育児休業を取りづらい雰囲気だから」が 41.0%となっている。

一方、母は、「希望の時期に保育所に入所できない（できなかった）から」の割合が 52.0%で最も高く、次いで「制度上、自分の希望する期間まで育児休業が取れないから」が 40.5%となっている。

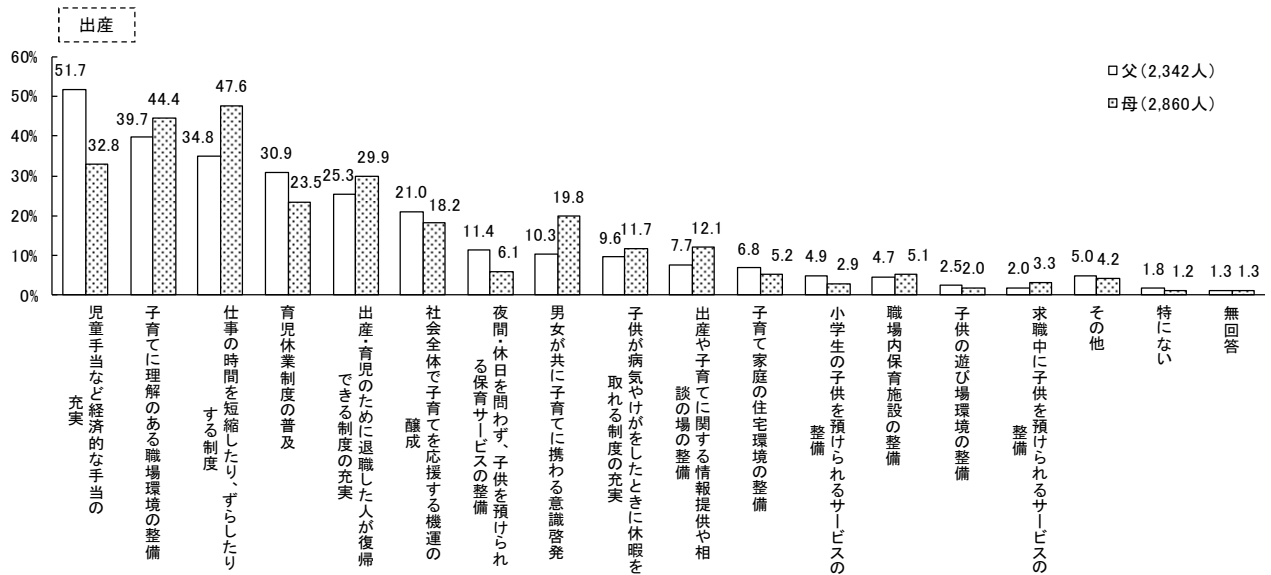


3 子育てに関して感じること

(1) 出産や子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

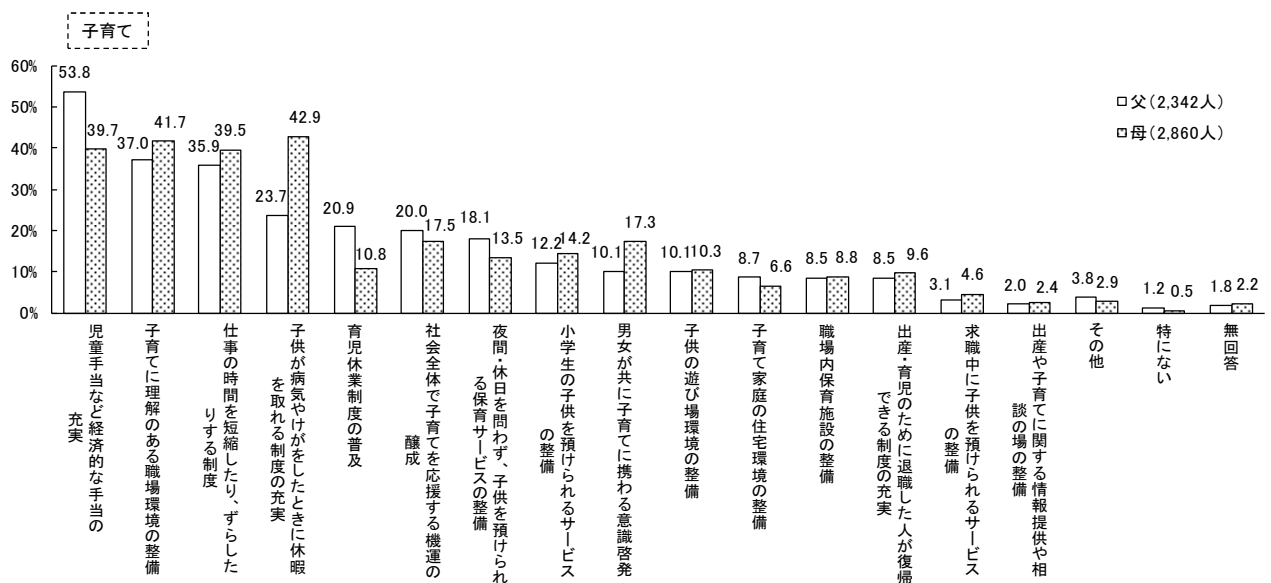
① 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

出産をしやすいするためには何が必要だと思うかを聞いたところ、父は、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が 51.7%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が 39.7%となっている。一方、母は、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が 47.6%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が 44.4%となっている。



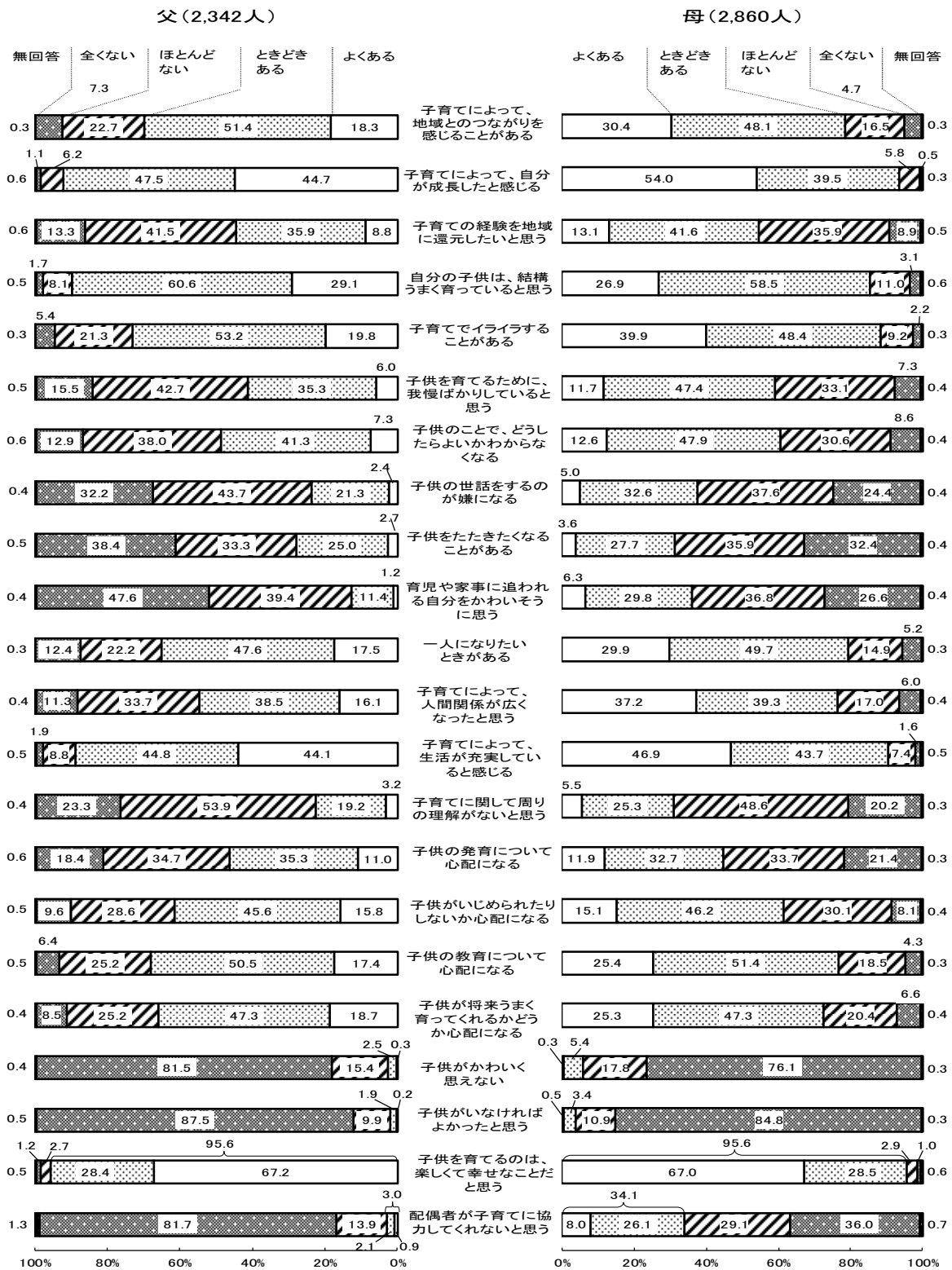
② 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

子育てをしやすいするためには何が必要だと思うかを聞いたところ、父は、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が 53.8%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が 37.0%となっている。一方、母は、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が 42.9%で最も高く、次いで「子育てに理解のある職場環境の整備」が 41.7%となっている。



(2) 子育てをしていて感じること

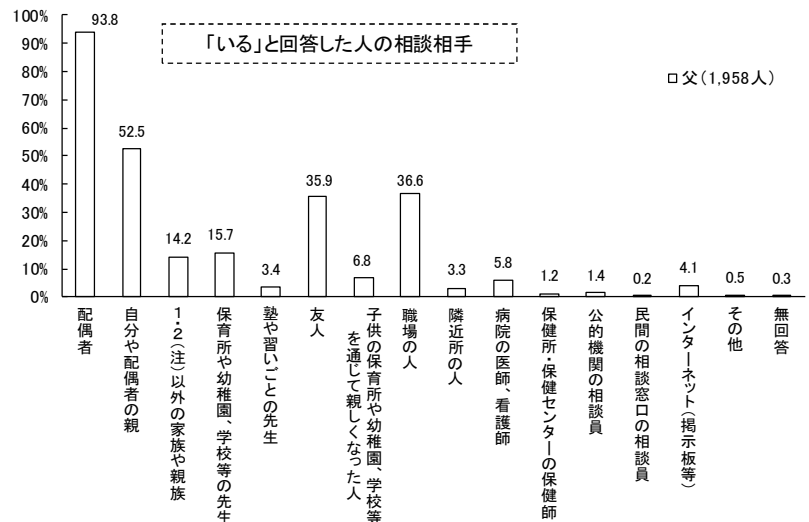
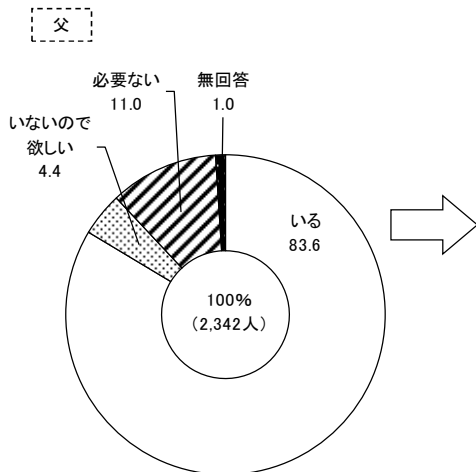
子育てをしていて感じることを聞いたところ、「子供を育てるのは、楽しくて幸せなことだと思う」について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、父母ともに 95.6%となっている。一方、「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、父が 3.0%、母は 34.1%で、母の方が 31.1ポイント高くなっている。



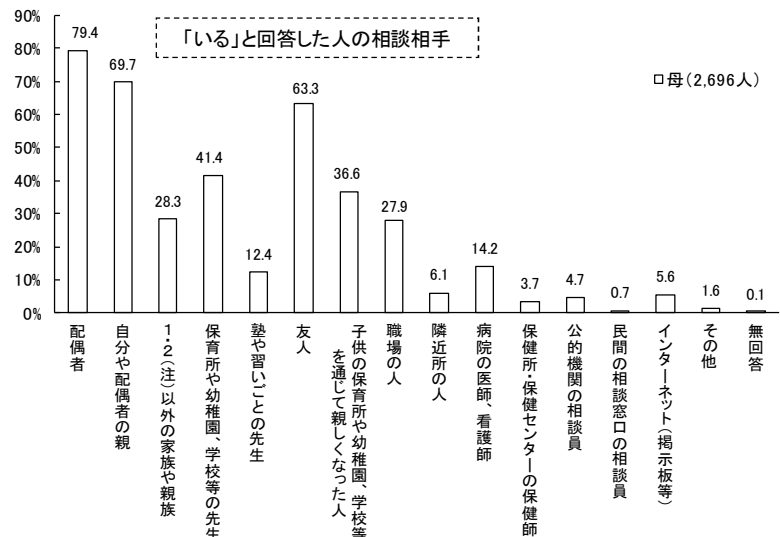
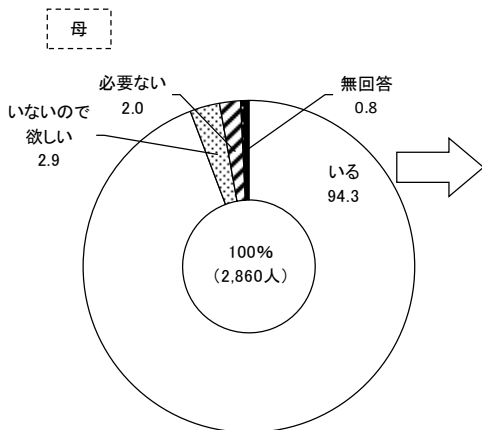
(※) 「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている (総数=父 2,301人、母 2,465人)

(3) 子供についての悩みや心配事の相談相手

子供についての悩みや心配事について相談する人はいるか聞いたところ、「いる」と答えた割合は、父が83.6%、母は94.3%となっている。さらに「いる」と回答した父1,958人、母2,696人に誰に相談しているかを聞いたところ、父母ともに「配偶者」の割合が最も高く、父が93.8%、母は79.4%となっている。次いで「自分や配偶者の親」の割合が高く、父が52.5%、母は69.7%となっている。



(注)「1・2」とは、「配偶者」、「自分や配偶者の親」を指す。

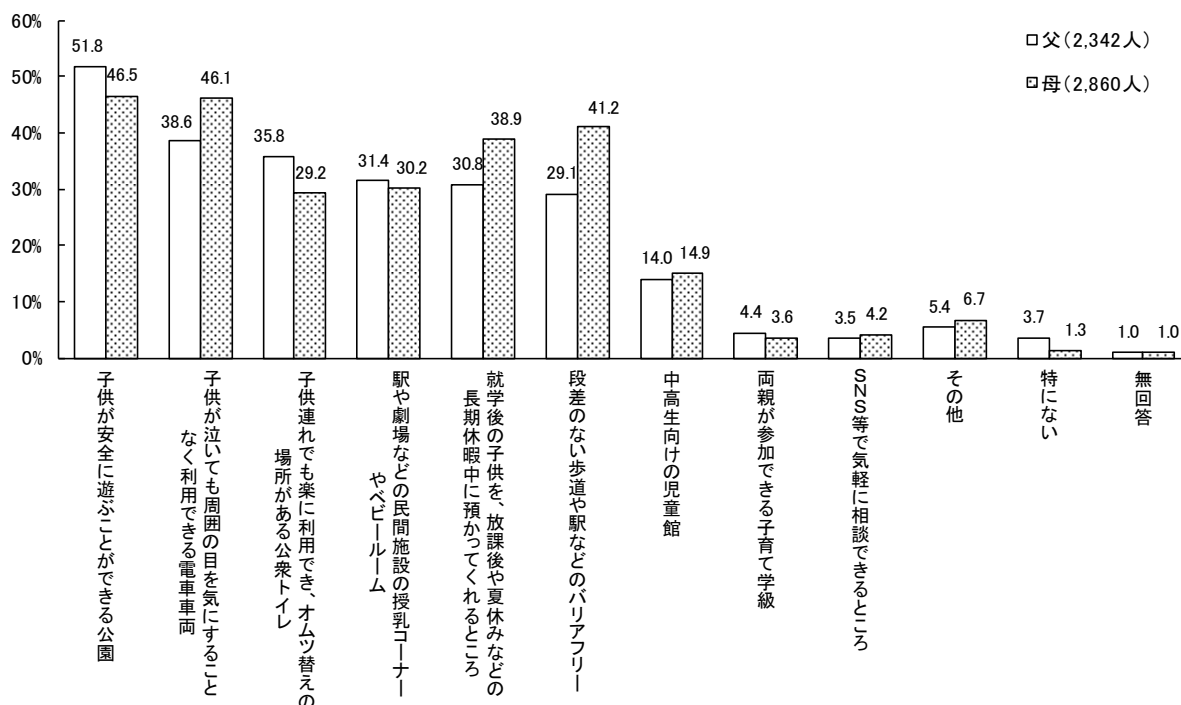


(注)「1・2」とは、「配偶者」、「自分や配偶者の親」を指す。

4 地域における子育て

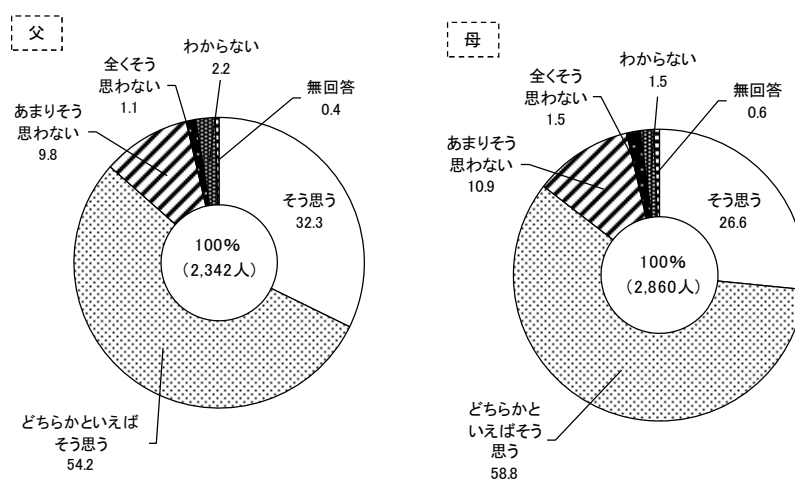
(1) 子育てのために整備してほしいもの〔複数回答〕

子育てしていく上で、又はこれまで子育てしてきた経験から整備してほしいものを聞いたところ、父母ともに「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高く、父が51.8%、母が46.5%となっている。次いで「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」で、父が38.6%、母は46.1%となっている。



(2) 住んでいる地域は安心して子育てできる地域か

住んでいる地域は、安心して子育てできる地域だと思うか聞いたところ、父母ともに「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く、父が54.2%、母が58.8%となっている。次いで「そう思う」は父が32.3%、母が26.6%となっている。

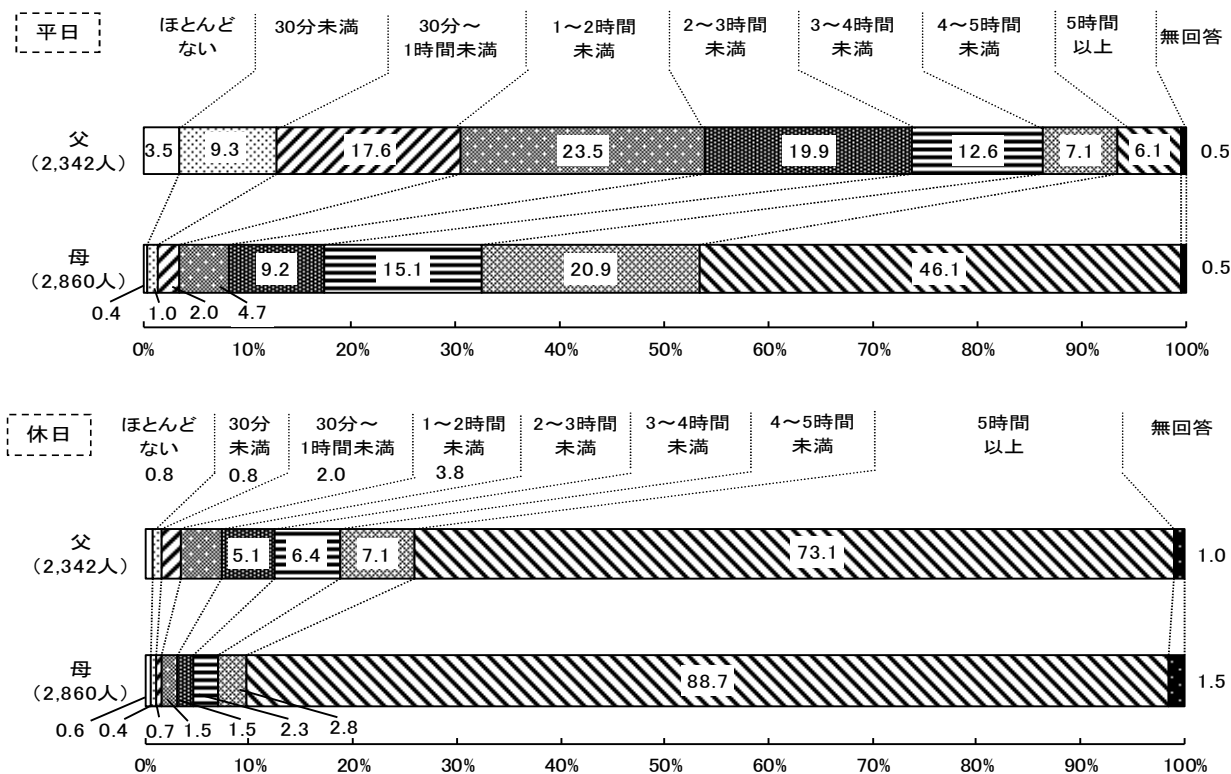


5 家族のコミュニケーション

(1) 子供と一緒に過ごす時間—平日と休日

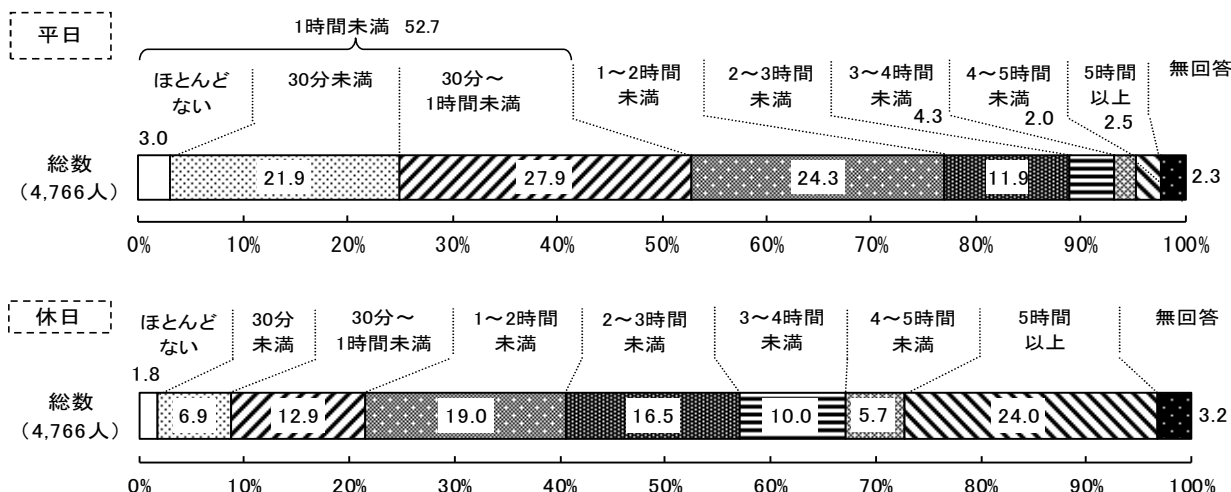
子供と一緒に過ごす時間について聞いたところ、平日は、父は「1～2時間未満」(23.5%)、母は「5時間以上」(46.1%)の割合がそれぞれ最も高くなっている。

一方、休日は、父母とも「5時間以上」(父73.1%、母88.7%)の割合が最も高くなっている。



(2) 夫婦の一日の会話時間—平日と休日

夫婦の一日の会話時間について聞いたところ、平日は「1時間未満」の割合が52.7%で、5割を超えている。一方、休日は、「5時間以上」の割合が24.0%と最も高くなっている。

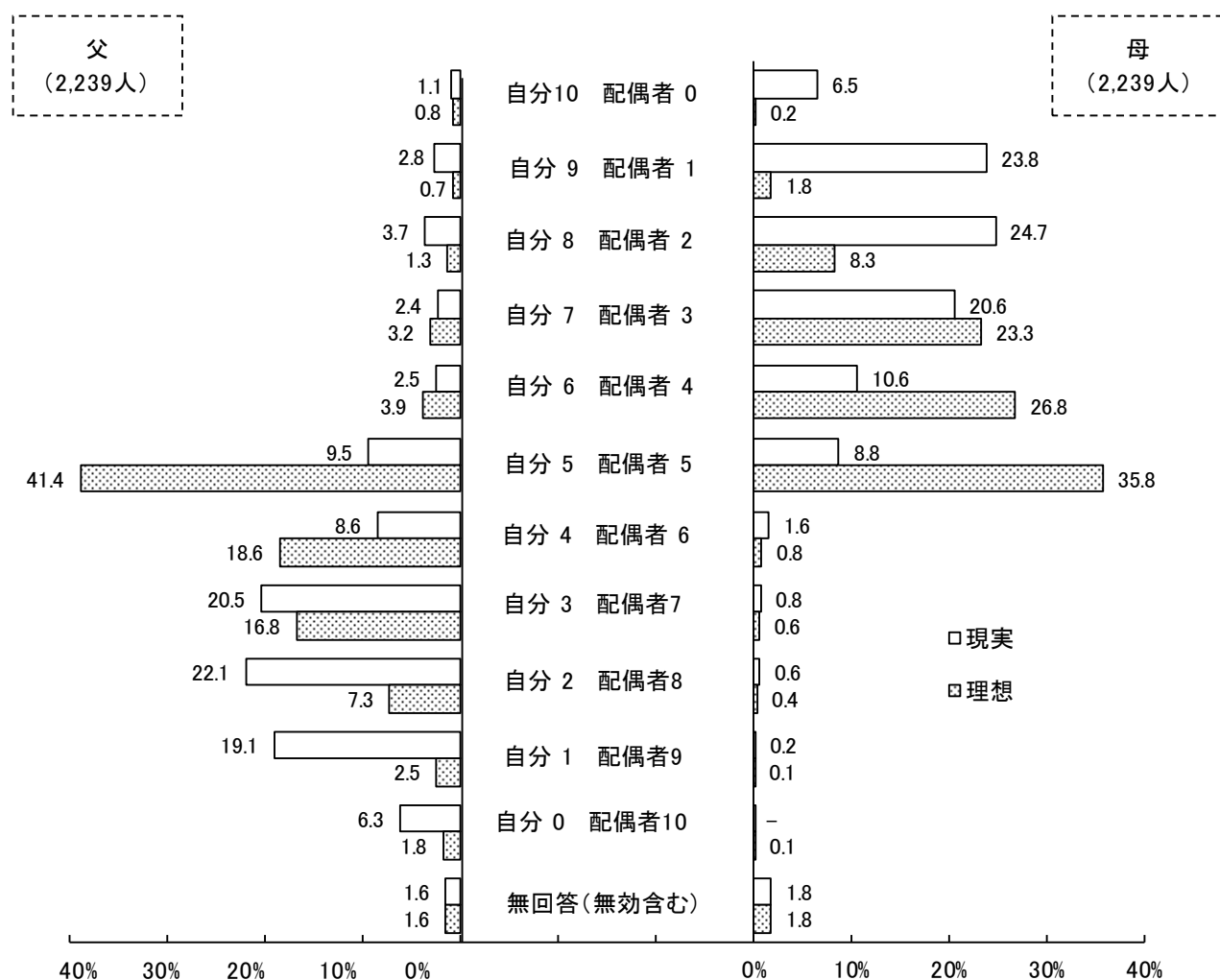


6 夫婦の家事・育児分担（対象：両親世帯のみ）

（1）夫婦の家事・育児の分担割合—理想と現実

家事・育児の分担割合があなた（回答者）と配偶者の間でどうなっていると思うかを聞いたところ、父は「自分2：配偶者8」の割合が22.1%、母は「自分8：配偶者2」の割合が24.7%で最も高く、夫、妻ともに「父2：母8」の割合が最も高くなっている。

さらに、本当はどれぐらいの分担割合にしたいと思うか聞いたところ、父は「自分5：配偶者5」の割合が41.4%、母は「自分5：配偶者5」の割合が35.8%で最も高く、夫、妻ともに「父5：母5」の割合が最も高くなっている。



(※) 調査票②について夫婦共に回答があった世帯について、父母それぞれ集計を行っている。(総数=父母各2,239人)

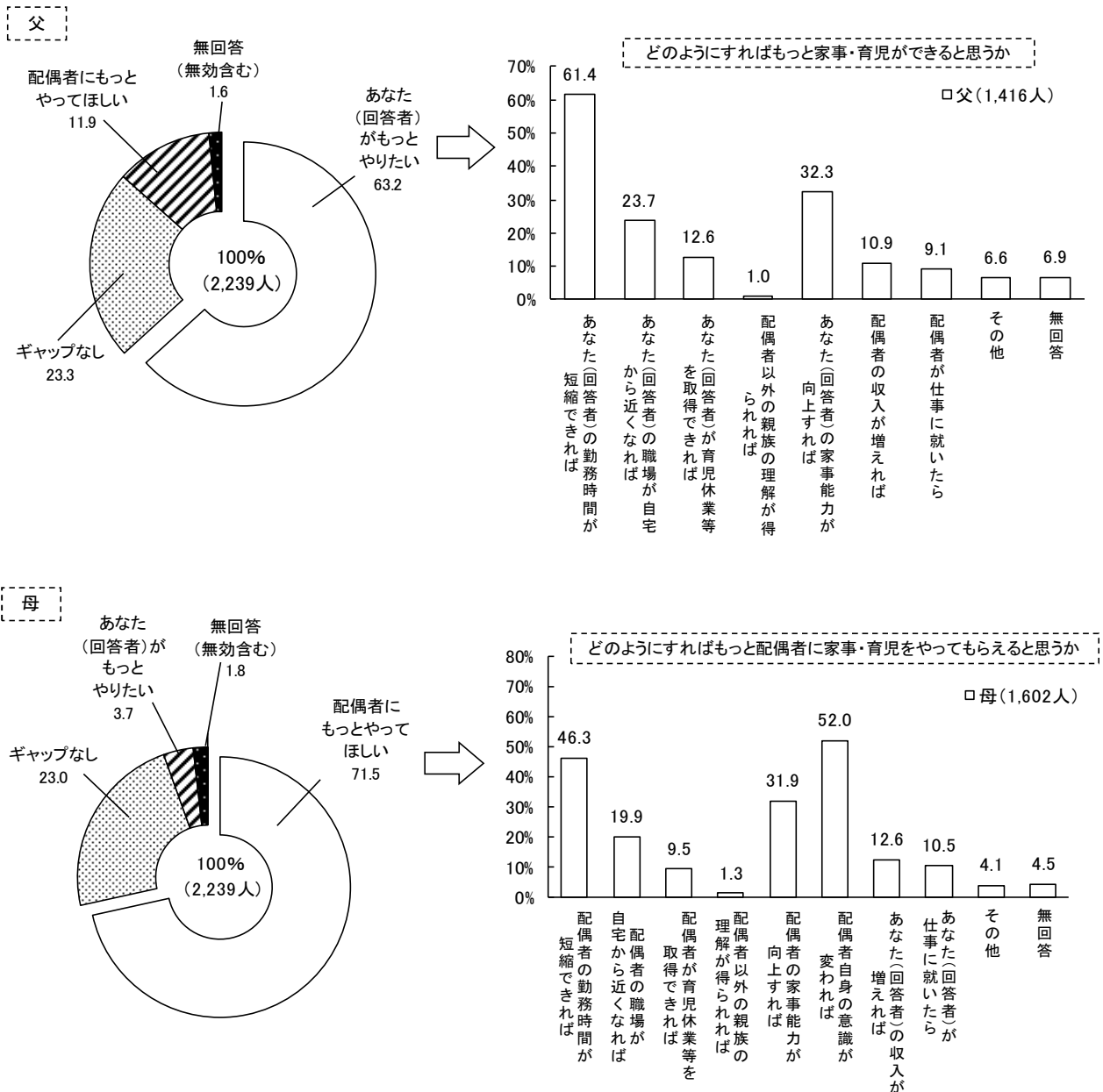
(父母のいずれか一方のみ回答があった場合は、無効として無回答に含めて計上している。)

(2) 夫婦の家事・育児分担について理想と現実の認識の差（ギャップ）と、もっと家事・育児をやるため又は配偶者にやってもらうための条件

夫婦の家事・育児分担についての理想と現実の差（ギャップ）の有無をみると、父は、63.2%の人が「自分をもっとやりたい」と思っている。一方、母は、71.5%の人が「配偶者にもっとやってほしい」と思っている。

「自分をもっとやりたい」と思っている父（1,416人）に、どのようにすれば、もっと家事・育児ができるかを聞いたところ、「（自分の）勤務時間が短縮できれば」の割合が61.4%で最も高く、次いで「（自分の）家事能力が向上すれば」が32.3%となっている。

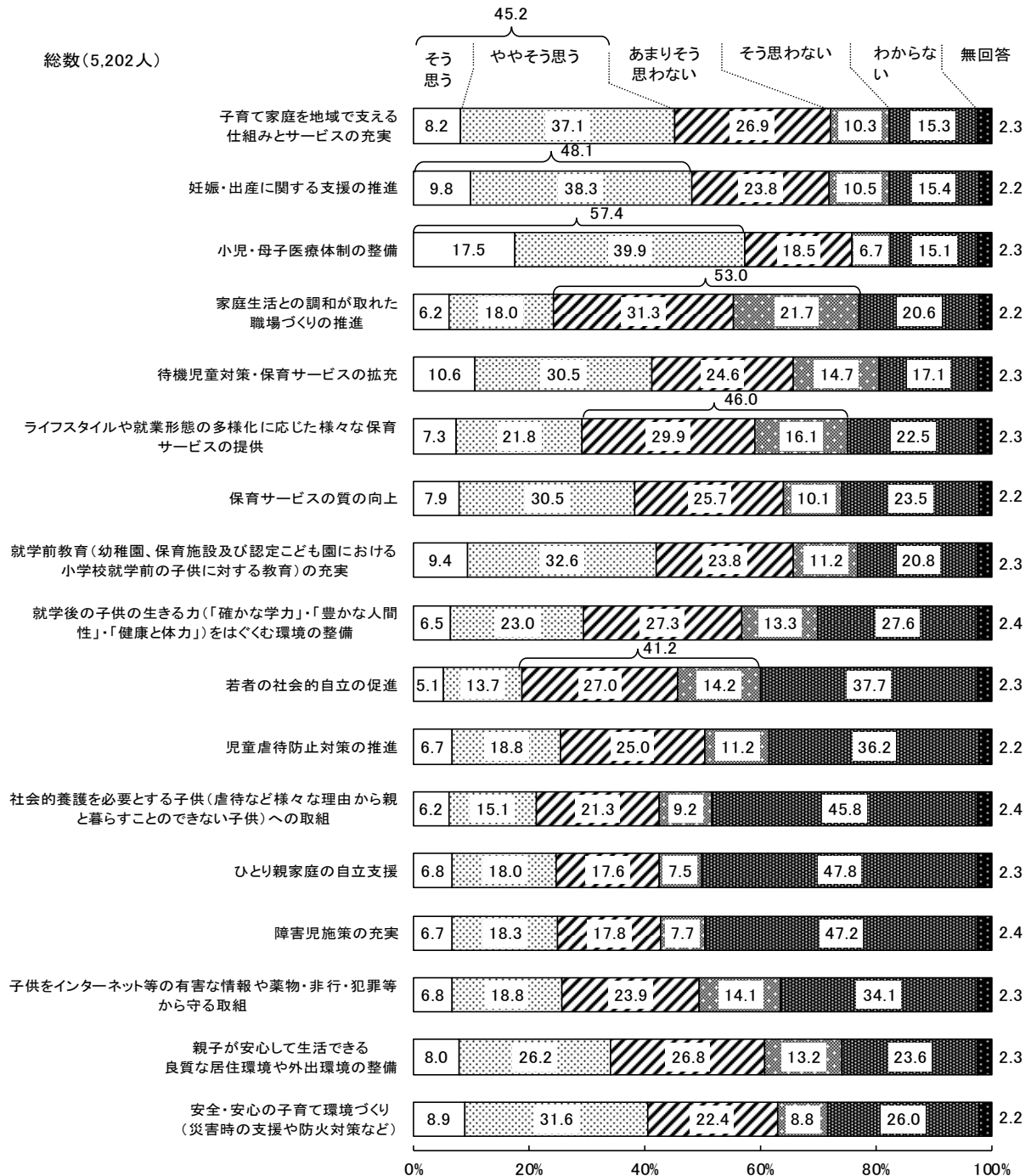
また、「配偶者にもっとやってほしい」と思っている母（1,602人）に、どのようにすればもっと配偶者に家事・育児をやってもらえるかを聞いたところ、「配偶者自身の意識が変われば」の割合が52.0%で最も高く、次いで「配偶者の勤務期間が短縮できれば」が46.3%となっている。



7 東京の子供・子育て支援の施策

東京都の子供・子育て施策が充実しているかについて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、「小児・母子医療体制の整備」が57.4%でもっとも高く、次いで「妊娠・出産に関する支援の推進」が48.1%、「子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実」が45.2%となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は、「家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進」が53.0%で最も高く、次いで「ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービスの提供」が46.0%、「若者の社会的自立の促進」が41.2%となっている。



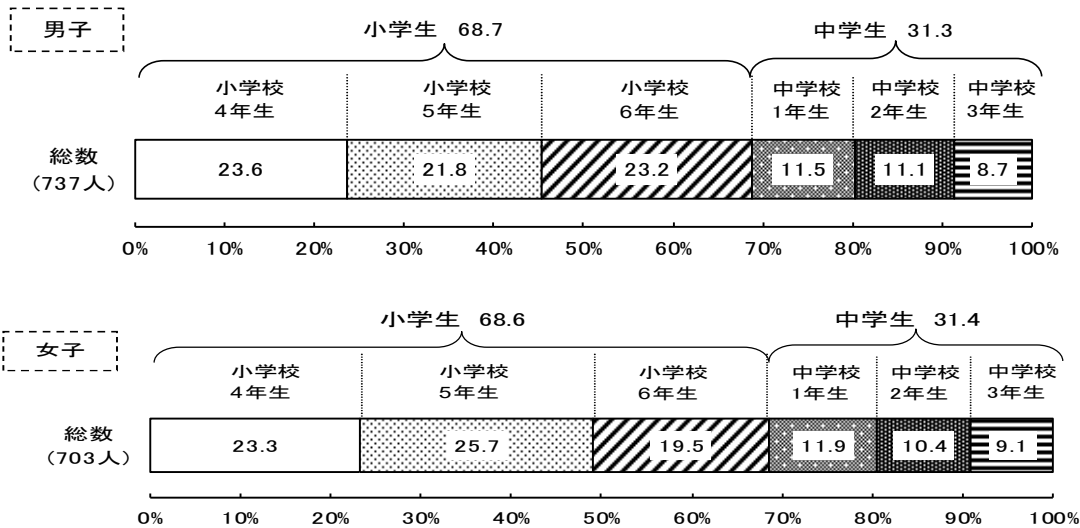
○ 調査票③（子供票）の結果

3,013世帯（集計対象世帯）の子供（小学校4年生～中学校3年生）1,440人の状況

1 子供の状況

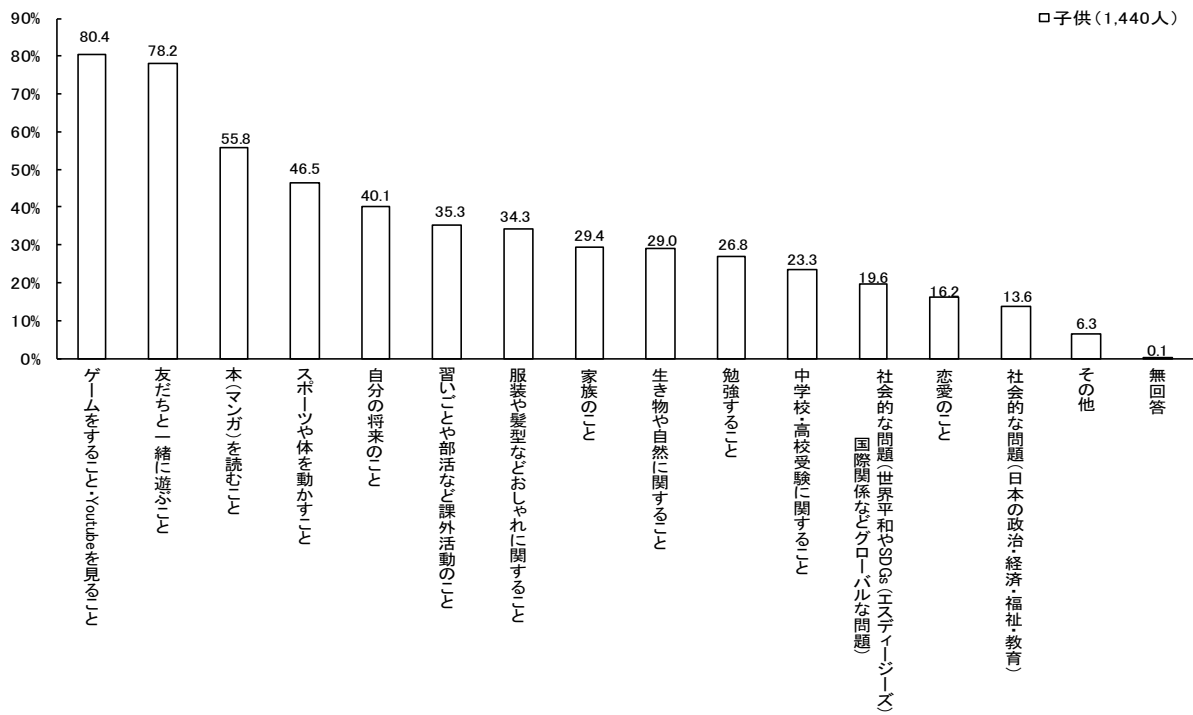
（1）性・学年別

子供の人数を学年別にみると、男子は「小学4年生」が最も多く23.6%、女子は「小学5年生」が最も多く25.7%となっている。



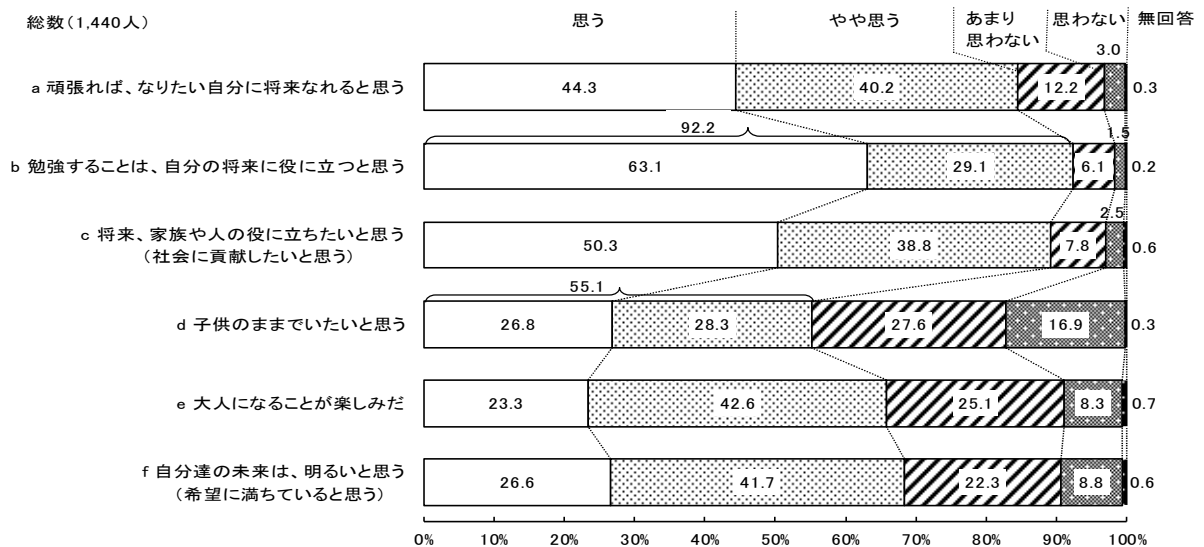
（2）興味や関心があること〔複数回答〕

今、興味や関心があることがどんなことか聞いたところ、「ゲームをすること・YouTube を見ること」が80.4%で最も高く、次いで「友達と一緒に遊ぶこと」が78.2%、「本（マンガ）を読むこと」が55.8%となっている。



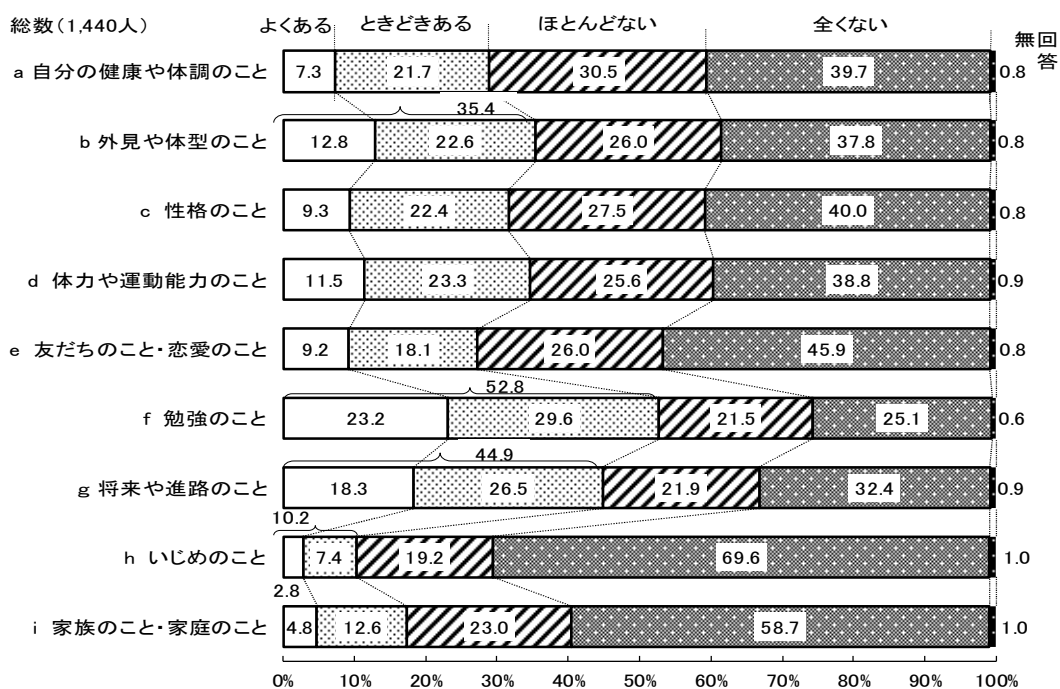
(3) 自分の未来や大人になることについての考え

自分の未来や大人になることについて、どのように考えているか聞いたところ、「勉強することは、自分の将来に役に立つと思う」について、「思う」と「やや思う」を合わせた割合は、92.2%となっている。一方で、「子供のままでいたいと思う」について、「思う」と「やや思う」を合わせた割合は、55.1%となっている。



(4) 不安や悩みを感じること

以下の項目について不安や悩みを感じるかどうか聞いたところ、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合が最も多いのは「勉強のこと」で、52.8%となっている。次いで「将来や進路のこと」が44.9%、「外見や体型のこと」が35.4%となっている。一方で、「いじめのこと」について「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、10.2%となっている。

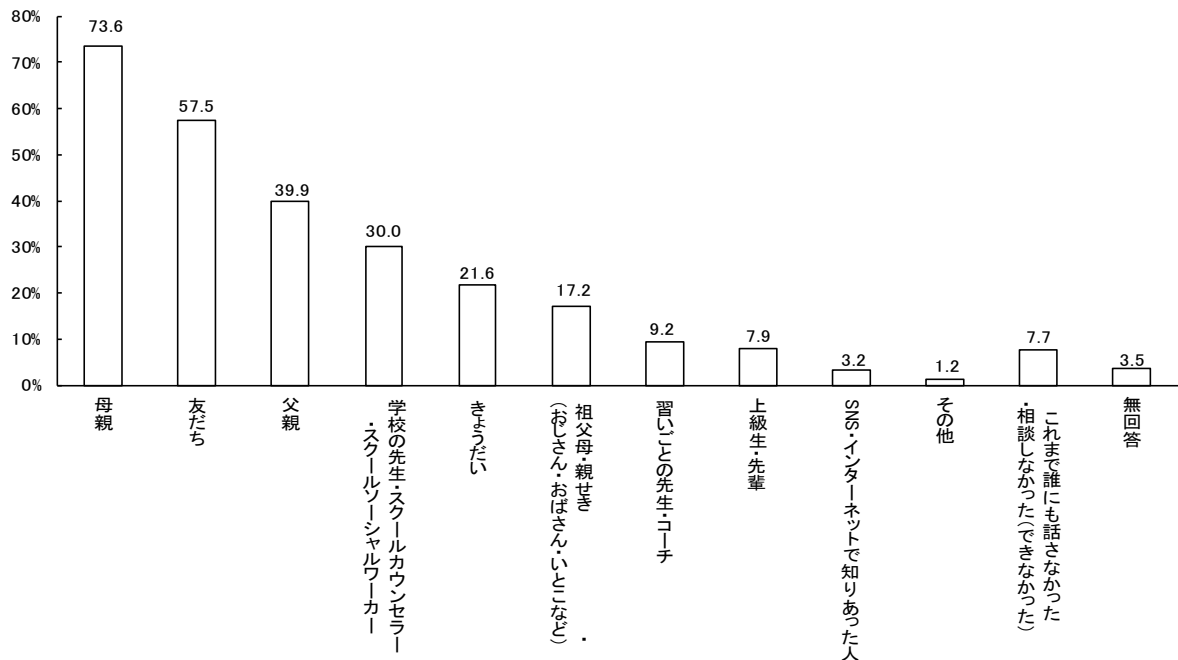


(5) 不安や悩みがある場合の相談相手

①これまで話を聞いてもらった人や相談した人〔複数回答〕

これまでに話を聞いてもらったり、相談した人を聞いたところ、「母親」と回答した割合が73.6%で最も高く、次いで「友だち」が57.5%、「父親」が39.9%となっている。

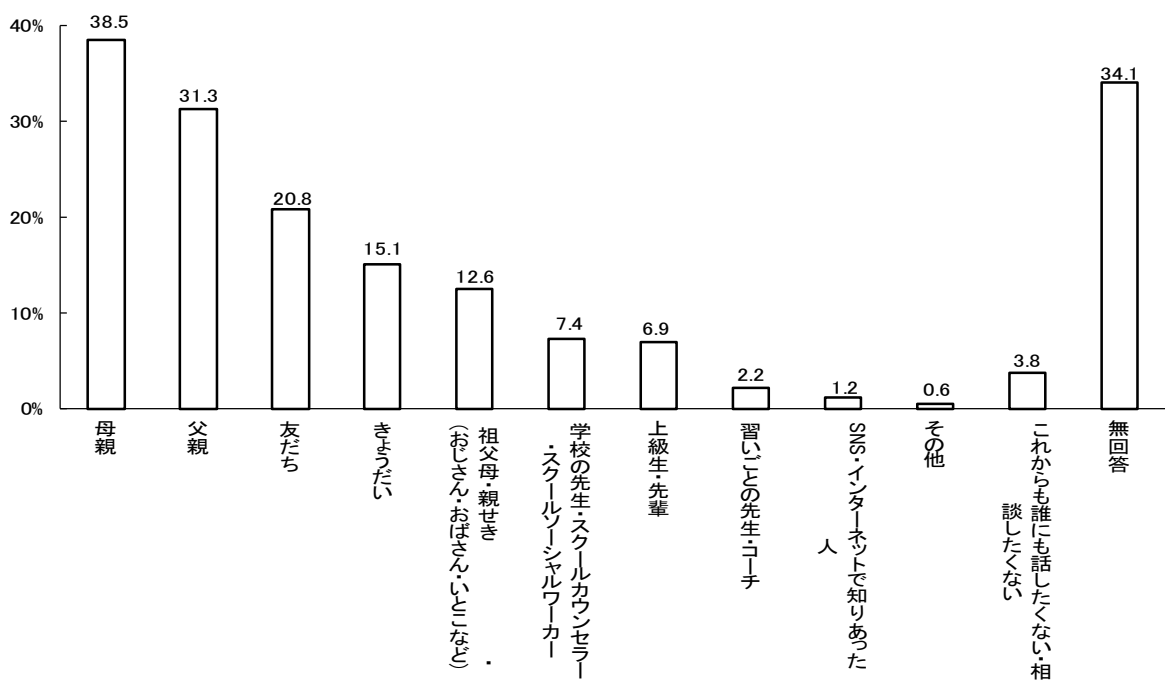
□総数(1,440人)



②本当は話を聞いてもらいたい人や相談したい人〔複数回答〕

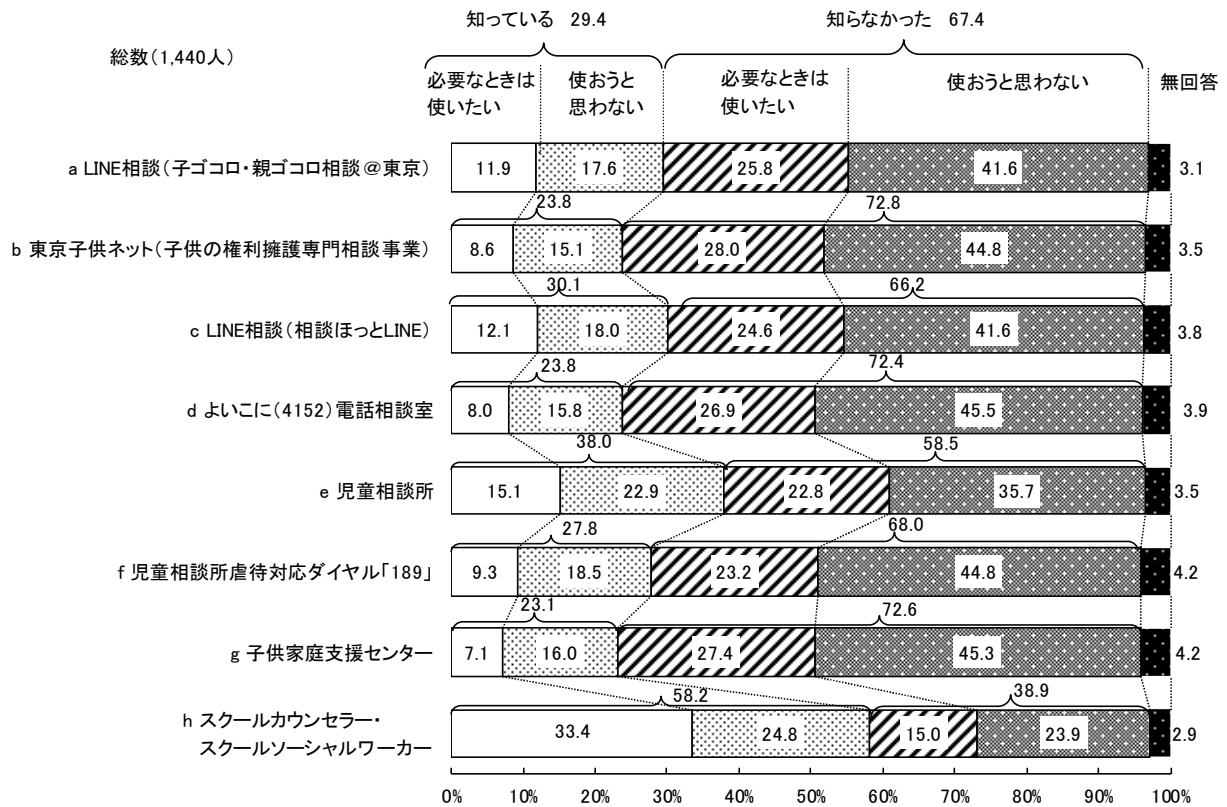
本当は話を聞いてもらいたい人や相談したい人を聞いたところ、「母親」と回答した割合が38.5%で最も高く、次いで「父親」が31.3%、「友だち」が20.8%となっている。

□総数(1,440人)



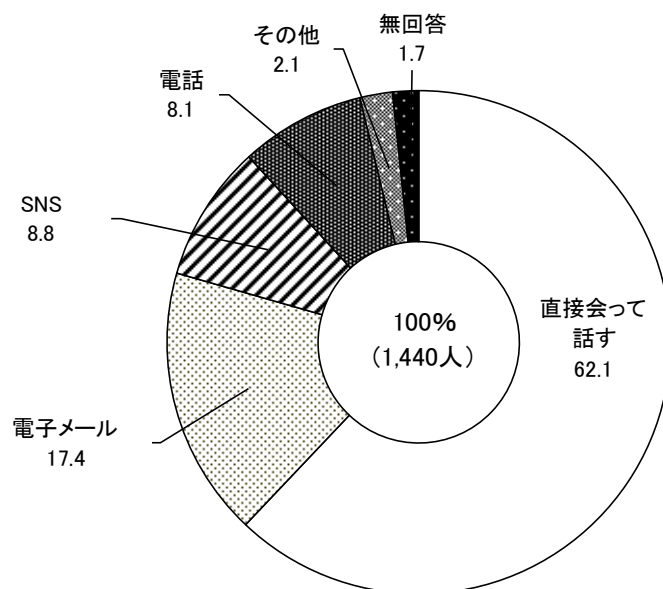
(6) 相談窓口等の認知度

相談窓口等について聞いたところ、「知っている」かつ「必要な時は使いたい」という回答が最も高かったのは、「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」で 33.4%となっている。



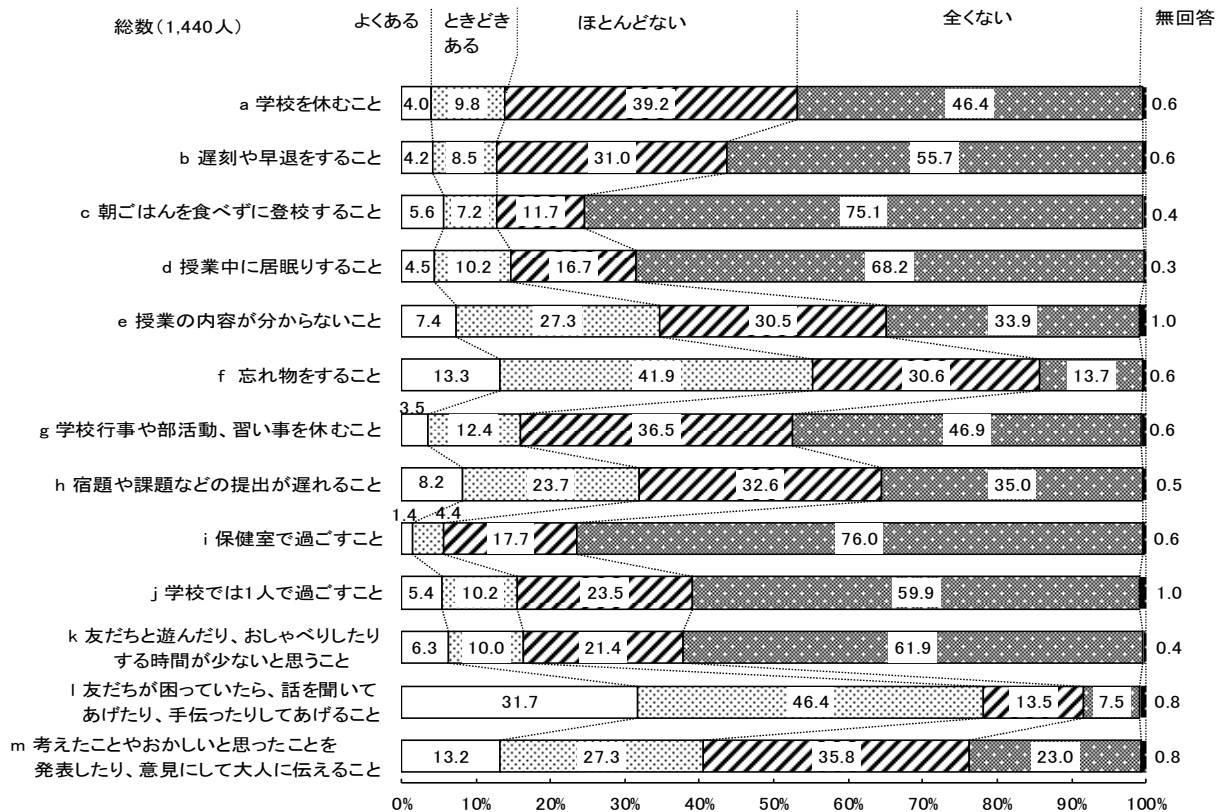
(7) 相談しやすい方法

どのような方法が相談しやすいか聞いたところ、「直接会って話す」が最も高く、62.1%となっている。



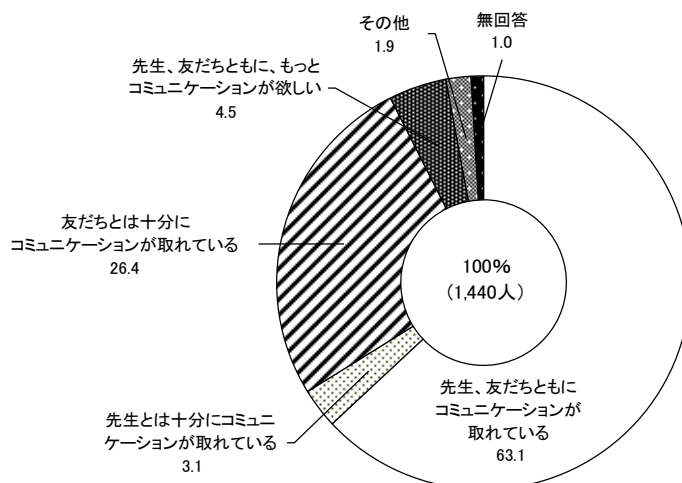
(8) 普段の学校生活の様子

普段の学校生活での様子を聞いたところ、「友達が困っていたら、話を聞いてあげたり、手伝ったりしてあげること」について、「よくある」が31.7%、「ときどきある」が46.4%となっている。一方、「忘れ物をすること」について、「よくある」が13.3%、「ときどきある」が41.9%となっている。



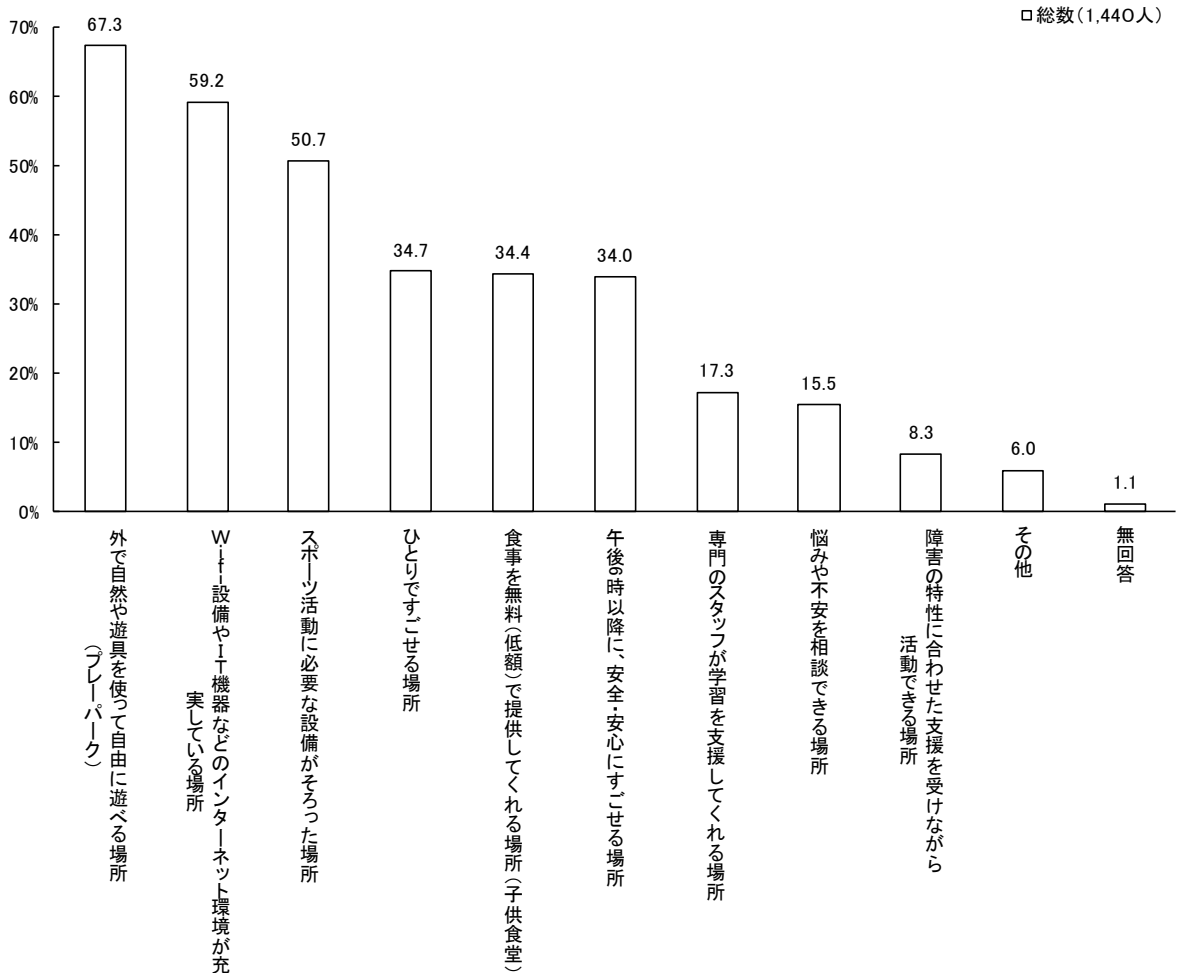
(9) 友だちや先生とのコミュニケーション

友だちや先生とのコミュニケーションについてどう思うか聞いたところ、「先生、友だちともにコミュニケーションが取れている」の割合が63.1%と最も高く、次いで「友だちとは十分にコミュニケーションが取れている」が26.4%となっている。



(10) 放課後や長期休みにあったらいいなと思う場所〔複数回答〕

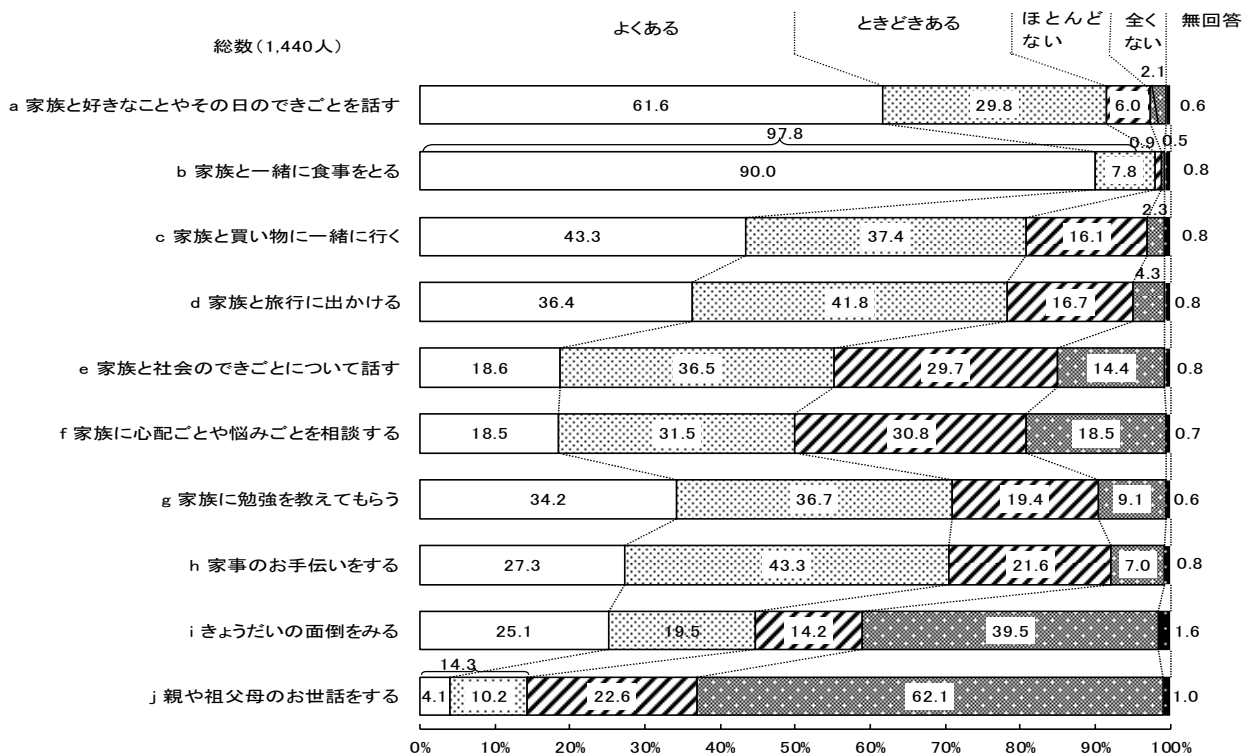
放課後や夏休み・春休みなどにあったらいいなと思う場所について聞いたところ、「外で自然や遊具を使って自由に遊べる場所（プレーパーク）」が67.3%で最も高く、次いで「Wifi設備やIT機器などのインターネット環境が充実している場所」が59.2%、「スポーツ活動に必要な設備がそろった場所」が50.7%となっている。



(11) 家庭での普段の生活

家庭での普段の生活について聞いたところ、「よくある」「ときどきある」と答えた割合が最も多いのは、「家族と一緒に食事をとる」で、97.8%となっている。

一方「よくある」「ときどきある」と答えた割合が最も少ないのは、「親や祖父母のお世話をする」で、14.3%となっている。



(12) 家族とのコミュニケーション

家族とのコミュニケーションの満足度を聞いたところ、「とても満足している」が67.6%、「どちらかといえば満足している」が25.8%となっている。

